



東海大学望星技術士会 会報

令和 7 年(2025)年 6 月 第 9 号

【目 次】

* ご挨拶

東海大学望星技術士会 会長挨拶

ー学生が効率的に思想を培う方策とは？ー 山本 佳男 1

望星技術士会の主な活動紹介と今後の展望 2

§ 1. 令和 6 年度 東海大学望星技術士会の活動概要 3

§ 2. 令和 6 年度 望星技術士会総会および特別講演会報告 島津 二郎 5

§ 3. 学生への説明会・出前授業等の報告

§ 3-1. 第一次試験説明会（静岡・海洋理工） 吉田 倫夫 7

§ 3-2. 第一次試験説明会（湘南・土木） 藤田 孝康 8

§ 3-3. 第一次試験激励会（湘南・土木） 藤田 孝康 11

§ 3-4. 第一次試験激励会（静岡・海洋理工） 吉田 倫夫 13

§ 3-5. 札幌キャンパス生物学部生物科学科への出前授業 綿貫 啓 14

§ 3-6. 湘南キャンパス建築都市学部建築学科への出前授業 永井 和典 15

§ 3-7. 湘南キャンパス建築都市学部土木工学科への出前授業 藤田 孝康 16

§ 3-8. 清水キャンパス海洋学部海洋理工学科学生への出前授業 吉田 倫夫 18

§ 3-9. 工学部機械システム工学科への出前授業 齋藤 寛 20

§ 4. 会員からの便り

§ 4-1. 技術士が繋ぐ縁 重野 聖之 21

§ 4-2. 技術士一次試験及び就活体験記 村上 翔海 22

§ 4-3. 町工場と技術士 杉山 耕治 23

§ 5. 令和 6 年度 望星技術士会講演会（東海大学体育学部丹治史弥助教）

ー箱根駅伝選手への低酸素環境トレーニングー 桜井 裕一 24

§ 6-1. 日本技術士会主催施設見学会参加報告 平野 滋 26

§ 6-2. 東海大学主催イベント，関連イベントへの参加報告 吉田 倫夫 28

§ 7. 会員インタビュー 和田顧問インタビュー 畑 恭子 31

§ 8. 望星技術士会の会員構成 34

* 連絡事項

1. 会員の皆様へのお願い 35

2. 2024 年度活動協力金状況報告 35

3. 望星技術士会の今後の予定 35

* 編集後記 36

東海大学望星技術士会 会長挨拶 ― 学生が効果的に思想を培う方策とは？ ―

会報の発刊にあたり、会員の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。

東海大学望星技術士会は、2015年11月に技術士資格を有する本学卒業生の同窓会組織として設立されました。会員卒業生の皆様の多大なるご協力とご尽力のおかげで、在学生への広報活動や第一次試験対策支援など、本技術士会は毎年着実な成果を挙げてきております。その功績は本学においても計り知れないものであり、心より感謝申し上げます。

本学の卒業生で構成される望星技術士会の会員の方々に対し、建学の精神について語ること、まさに釈迦に説法かもしれませんが、私が東海大学に奉職して27年を経る中で、その奥深さを改めて感じたのは、それほど昔のことではありません。

私は本学の卒業生ではありませんが、東海アーカイブとして公開されている学園史資料を拝見し、創立者が唱えた建学の精神と自分の理解が遠くないことを確認でき、安心して筆を進めることにしました。

建学の精神では、思想、体躯、知能、希望の4つのキーワードが順に登場します。まず確固たる思想と健全な体が整えば、どんな困難にもくじけないと説いています。その上で勉学に励み、最後に高い理想に向かって進むよう提唱しています。つまり、充実した「思想・体・知識」の3要素を武器に、人生の目標に立ち向かいなさいと教えているのです。

これら3要素のうち、体は運動に励むことで養え、知識は一生懸命学ぶことで身につきます。これらはまさに学生にとって大学生活の本分と言えるでしょう。しかし、最初に登場する「思想を培う」とは、一体どのようにすれば良いのでしょうか。おそらく松前重義博士が教壇に立っていた頃、多くの学生から同様の質問が投げかけられたのではないかと思います。

私自身にはその機会がなかったため、独自の解釈をすると、「思想を培う」ためには「未知の経験を積む」ことが最も有効であると考えてい

山本佳男

(やまもと よしお)

東海大学教授

サイエンス・エンジニアリング・カレッジ

工学部長、機械システム工学科



ます。既知の経験の繰り返しでは情報量は増えませんが、未知の経験を通してこそ新たな価値観や発見が生まれます。学生の身近にある未知の経験としては、学生プロジェクト、ボランティア活動、留学などが考えられますが、中でも留学は、文化や宗教、食生活、空気感など異なる価値観に直接触れる貴重な体験です。

留学というと語学留学を思い浮かべがちですが、言語だけでなく、多くの異文化に接することで、人間の寛容性と強靱性が培われ、それが結果的に様々な難局を柔軟かつ冷静に判断し対応する豊かな思想へと繋がるのです。未知な経験を一つひとつ積み上げていくことで、個々の思想の厚みと幅が増していくと私は考えています。

そのような発想から、私は機会があるごとに学生や保護者に留学を勧めています。また、留学先の新規開拓にも注力し、多くの学生が異文化体験を通じて成長することを期待しています。

建学の精神の「若き日に汝の・・・」というフレーズは、決して年齢的な若さを指すものではありません。青春を“成長・学び・冒険”と捉え、これを実践し続ける限り、物理的な年齢に関係なく誰もが「若き日」を歩んでいるものだと思っています。

技術士という資格が、まさに現役の学生にとって、そして昔学生だった人達にとっても、建学の精神の結びの「汝の希望を星につなげ」を体現する標石のひとつになり得ると考えています。20種類もの技術部門を擁する技術士資格ですので、本学の多岐にわたる理工系分野にいる一人でも多くの学生が技術士に興味を抱いていただけることを願いつつ、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

望星技術士会の主な活動紹介と今後の展望

1. 自己紹介と技術士会との関わり

2023年7月より、望星技術士会の副会長代表を務めております綿貫と申します。海洋学部大学院海洋工学専攻科を修了後、主に消波ブロックを扱う建設会社にて25年間、研究開発に従事し、生物との親和性を考慮した沿岸構造物の開発に取り組んでまいりました。その後、環境・生態分野への関心を深め、20年前に現職へと転職し、現在に至ります。

望星技術士会には2018年、前副会長代表の笠原さんのお誘いで入会しました。当時は会員数約110名で、主に技術士同士の情報交換や、後進への技術指導を目的とした勉強会や交流活動が中心でした。役員の間では、大学と連携した啓発活動の必要性が年々強く意識されるようになってきました。

2. 大学との連携と啓発活動の拡充

当会では近年、技術士制度の認知度向上と、学生への一次試験受験に関する啓発を目的とした大学連携の出前授業に力を入れてきました。2020年度に湘南キャンパスの土木工学科・建築学科で授業を開始し、2021年度には札幌キャンパスの海洋生物学科、2022年度には静岡キャンパスの海洋理工学科、2024年度には湘南キャンパスの機械システム工学科へと対象を広げています。

これらの取組により、教職員や学生の関心も高まり、技術士制度の理解が着実に進んでいると感じています。2024年度の活動の詳細は本会報の別記事をご参照ください。なお、2025年度も各キャンパスへ一次試験受験対策図書を寄贈し、すでに受験説明会も実施しています。さらに、秋には直前激励会、出前授業などを予定しております。また、会員サービスとして大学の先生による講演会も企画しています。

綿貫啓

(わたぬきあきら)

海洋学部海洋土木工学科

1977年卒

技術士(水産部門)

(株)アルファ水工コンサルタンツ

統括参事



3. 合格支援体制の充実と会員ネットワークの活用

こうした啓発活動の成果として、2024年度には建設・環境・水産等の部門で11名の一次試験合格者を輩出しました。受験者数は年々増加傾向にあり、今後は年間30名以上の合格者を安定的に輩出することを当面の目標としています。

さらに、一次試験合格者は、実務経験を通じて第二次試験に向けた準備を進めていきます。当会としても、次のステップを目指す受験者に対して、模擬面接や論文添削などの実践的な支援を含め、専門性に応じた指導技術者を紹介できる体制の整備を進めています。

こうした支援体制を可能にしているのが、当会の充実した会員構成です。2024年末時点で、会員数は約250名に達し、6年間で倍増しました。会員の専門分野も建設、環境、水産、情報、農業、機械など多岐にわたっており、分野横断的な技術交流が可能です。この豊富な人的ネットワークを活用することで、受験者に対してより的確なサポートが可能になると考えています。

4. おわりに

望星技術士会が、技術士を志す学生や若手技術者にとって頼れる存在であり続けるとともに、現役会員にとっても学びと交流の場であることを目指し、今後も価値ある活動を継続してまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

§ 1. 令和 6 年(2024 年)度東海大学望星技術士会の活動概要

役員会の開催 (11 回)

第 1 回

開催日：令和 6 年 4 月 20 日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長 3 名、常任幹事 4 名、幹事 5 名

主要議題

- ◆ R6 年度総会(対面・Web)について
湘南キャンパス 19 号館(7/20)
特別講演；前田秀一先生に依頼
- ◆ 秋の講演会；体育学部の先生に依頼
- ◆ 活動計画案について

第 2 回

開催日：令和 6 年 5 月 25 日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長 3 名、常任幹事 5 名、幹事 5 名、会計幹事 1 名

主要議題

- ◆ R6 年度総会(対面・Web)について
懇親会「ログハウス」に交渉中
- ◆ 各委員会報告
湘南・静岡キャンパス(以下、C と略す)で受験説明会を予定
No8 会報は 8 割終了
HP のレイアウト更新案の検討中
- ◆ 会則改定案作成「常任幹事の任期」
副会長以外の常任幹事の定員 10 名

第 3 回

開催日：令和 6 年 6 月 22 日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長 3 名、常任幹事 5 名、幹事 3 名、会計幹事 1 名

主要議題

- ◆ R6 年度総会(対面・Web)準備
リハーサルの準備
- ◆ 静岡 C と湘南 C での受験説明会の報告
- ◆ 秋の講演会は体育学部丹治先生に決定
- ◆ 会報 8 号完成ほぼ完成
- ◆ HP レイアウト案を仮決定

第 4 回

開催日：令和 6 年 8 月 31 日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長 2 名、常任幹事 7 名、幹事 2 名

主要議題

- ◆ 総会 7/20 の報告
会場 29 名、Web8 名、懇親会 24 名参加
- ◆ 一次試験直前激励会を静岡と湘南 C で計画。静岡は講師 2 名の参加予定
- ◆ 会員イベントとして講演会は桜井常任幹事が対応。9/23 に丹治先生の講演。
- ◆ 会計細則、大学からの報酬の扱い審議
- ◆ 総会内容は FB の情報発信済み
- ◆ 工学部機械系学科への出前授業準備

第 5 回

開催日：令和 6 年 9 月 28 日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長 3 名、常任幹事 5 名、幹事 2 名

主要議題

- ◆ 大学イベント運営委員会
試験激励会を静岡・湘南 C で 10 月に実施。札幌 C で 11 月に出前授業計画。
建築学科、海洋理工学科、土木工学科で 12 月に出前授業の計画。機械システム工学科は可能性の検討中。
- ◆ 会員イベント運営委員会
丹治先生(9/23)に開催、22 名参加。講演概要は FB で公開。
- ◆ ホームカミングデーは体育館で実施予定。同窓会による講演会は無模様であり、参加は見送る可能性あり。
- ◆ 会員紹介集は新たな教職員の研究室紹介を追加する。

第 6 回

開催日：令和 6 年 10 月 26 日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長 2 名、常任幹事 4 名、幹事 2 名

主要議題

- ◆ 第一次試験直前激励会（湘南、静岡）で実施
- ◆ 出前授業（札幌、湘南、静岡）の計画
札幌の講師は東京1名、札幌在住2名
機械システム工学科の出前授業を12月に実施。講師は杉山会員に依頼。
- ◆ 役員人事交替を同一時期に固定するため、来年の総会で全役員は退任し、新たに2年ごとに改選することとする。
HPの改定に関連して、新たに賛助会員を設ける案について検討。
- ◆ 資金不足が危惧され、会費制導入を再検討する。

第7回

開催日：令和6年11月30日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長1名、常任幹事4名、幹事3名

主要議題

- ◆ ホームカミングデーは不参加とした。
- ◆ 札幌C出前授業報告。一次試験は数名が受験。合格を期待した。
- ◆ 湘南C（土木、建築、機械システム工学科）の出前授業の計画
- ◆ 静岡キャンパスの出前授業計画
- ◆ No.9会報では一次試験合格者の体験記事を依頼。技術士会の見学会のレポートも依頼中
- ◆ 会員名簿は情報管理委員会で担当。
- ◆ 技術士会との相互協定について検討。

第8回

開催日：令和6年12月21日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長3名、常任幹事4名、幹事2名

主要議題

- ◆ 湘南C出前授業(建築、機械)の報告。
- ◆ 湘南C(土木)、静岡C(海洋理工学科)の出前授業の計画。
- ◆ 会報No9は通常版、No10を10周年号とする。
- ◆ 総会を10周年イベントに位置づける。

第9回

開催日：令和7年1月25日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長2名、常任幹事7名、幹事2名

主要議題

- ◆ 湘南C、静岡Cでの出前授業報告
- ◆ 会報の「会員から一言」は廃止する
- ◆ FBは各出前授業の内容を速報的に情報発信し、HPでは各授業の内容を報告しているが投稿件数が少ない。
- ◆ R7年総会は7月に湘南Cで実施検討

第10回

開催日：令和7年2月22日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長3名、常任幹事7名、幹事2名

主要議題

- ◆ 冊子「東海大学望星技術士会のご紹介」を作成
- ◆ 会報No9は連休後の完成を目指す。
- ◆ 総会の内容は3月に会長と協議する。
- ◆ 過去の総会とは異なり、議決は短く、当会発起人による座談会を行う。
- ◆ 就職や営業活動につながるイベントとし、会員の参加を促したい。

第11回

開催日：令和7年3月29日(土)

場所：リモート会議

出席者：副会長3名、常任幹事7名、幹事2名

主要議題

- ◆ 札幌C、湘南C、静岡Cにて一次試験合格者11名(大学生9名、院生2名)。
- ◆ 11月に防災シンポジウムを企画。
- ◆ 会報には大学主催のイベント参加記録を掲載することとした。
- ◆ 総会について山本会長と相談。19号館で実施し、懇親会を行う予定。総会時の講演を木村次期学長に依頼。
- ◆ 令和6年度の活動計画について協議。
- ◆ 活動協力金、寄付金の報告があった。
- ◆ 新役員人事案の検討。

§2 令和6年度 望星技術士会総会および特別講演会 報告

1. 総会・特別講演会の概要並びに参加者

令和6年度定期総会及び特別講演会を2024年7月20日（土）に湘南キャンパス19号館に於いて会場並びにZoomによるWeb方式のハイブリッドで開催した。参加者は合計37名（会場：会員・教職員会員他29名、web：会員・教職員会員8名）であった。事前のwebによる評決は91名であった。



写真1 山本会長の挨拶（※1）

2. 総会開催内容

定期総会は以下の内容で実施された。

- (1) 会長挨拶：山本会長の挨拶
- (2) 開会宣言：綿貫副会長代表による開会宣言
- (3) 議長選出：綿貫副会長代表を選任
- (4) 総会の成立宣言：議長により令和6年度東海大学望星技術士会定期総会の成立を宣言
- (5) 報告事項：令和5年度 活動実績報告
永井事務局長より、役員会開催の回数、実施状況について報告された。行事については、技術士第一次試験説明会、参考図書の贈呈、令和5年度定期総会内容、特別講演会、出前授業の実施、会報第8号の発行等について報告された。
- (6) 審議事項：1～4号議案について、有効評決総数の過半数の承認により、原案通り承認された。

【第1号議案】「令和5年度会計報告、会計監査報告」

【第2号議案】「令和5年度会則改定」

【第3号議案】「令和6年度役員選任」

【第4号議案】「令和6年度活動計画（案）並びに予算計画（案）」

島津二郎（しまづじろう）
海洋学部海洋土木工学科 1986年卒
技術士（建設部門/土質及び基礎）
株式会社ソイルシステム



(7) 事務局よりお願い

- ・「活動協力金のお願い」
- ・「役員の募集」

(8) 議長退任：令和6年度東海大学望星技術士会定期総会の議題はすべて終了し、綿貫副会長代表は議長を退任。

(9) 閉会挨拶：庄司副会長による閉会宣言



写真2 総会の様子-1（※1）

3. 特別講演 前田秀一教授（情報理工学部情報メディア学科）による特別講演「物理で考え化学で創るアテリアルを用いたデジタル加飾」が実施された。
質疑応答により匂いセンサー、QRコードのカラー化、学生の意識などについて議論がなされた。



写真3 前田先生の講演（※1）

4. 懇親会

総会の会場となった 19 号館前のログハウスで 17:00～19:00 に一次試験合格者 3 名を含む総勢 24 名により、桜井常任幹事の進行で盛大に行われた。教職会員の先生方とは、日頃接点がない会員も多く、この機会を利用して親交を深めた。合格者の皆さんには、実務経験を積んで技術士第二次試験を突破することを願う。

懇親会にご参加いただいた教職員会員は以下の通り（敬称略）。

山本佳男、前田秀一、梶田佳孝、三神厚、虎谷充浩



写真 4 総会の様子-2（Web 配信）



写真 5 懇親会会場



写真 6 懇親会の様子

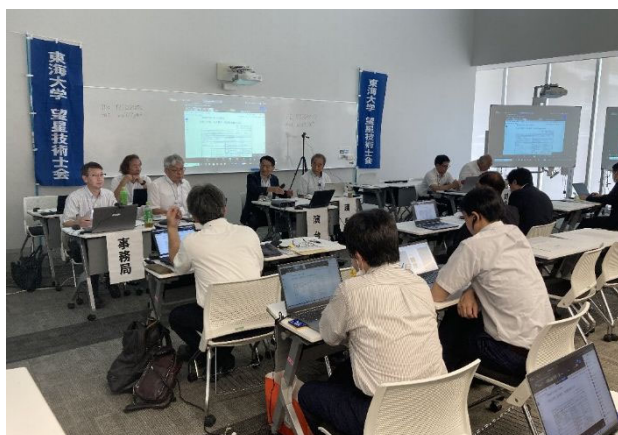


写真 7 総会の様子-3



写真 8 19 号館前での集合写真（※1）

注）（※1）と記載されている写真は、東海大学新聞の記者からご提供いただきました

§ 3-1 令和6年度 海洋学部海洋理工学科生への技術士第一次試験説明会 開催報告

望星技術士会 吉田倫夫

1. 日時

令和6年5月27日（月）

17:10～18:30（80分）

2. 場所・方法

・場所：東海大学静岡キャンパス

3号館3階 3319教室

・方法：Web会議

Zoomによるオンライン説明会

3. 参加者

・東海大学教員：仁木教授

・東海大学学生：22名（海洋理工学科2年生、3年生）

・望星技術士会役員が所属する企業の卒業生：5名（2社）

・望星技術士会：5名（講師：笠原勉氏、吉田倫夫氏、聴講：久一博世氏、齋藤寛氏、藤田孝康氏）

4. 説明会（出前授業フォローアップ）

本説明会は、令和5年1月19日と令和6年1月18日に開催した出前授業のフォローアップとして実施した。出前授業の参加者のうち「技術士第一次試験に挑戦してみよう」と思ってくれた学生へ関連情報を提供することを目的として開催したものである。なお、望星技術士会の役員が所属する企業に在籍する卒業生にも試行的に参加を募集した。

【ご挨拶】・・・仁木教授

今回の説明会の主旨を説明いただいた。

【前半】17:10～17:40・・・吉田講師

（1）出前授業のおさらい

（2）技術士とは

（3）技術士への道／試験の仕組み

（4）技術士第一次試験の実施大綱、試験の概要・詳細

（5）技術士第一次試験の問題（基礎科目、適性科目、専門科目）と対策

【後半】17:40～18:10・・・笠原講師

（6）海洋理工学科在学生の専門分野の選択

（7）技術士第一次試験 専門科目（環境部門）

・地球環境・水質関連に関する出題傾向と対策

・各種公園・条約・生物生態系に関する出題傾向と対策

【おわりに】・・・仁木教授

5. 図書贈呈

説明会に先立って、技術士第一次試験に関する参考図書を贈呈（郵送）した。

・「適性・基礎」：1冊

・「専門（応用理学）」1冊

・「専門（環境）」1冊

6. 終わりに

海洋学部海洋理工学科の学生の皆さんが、一人でも多く技術士第一次試験に挑戦してくれることを期待しています。

【謝辞】

今回の説明会に際して、ご尽力頂きました海洋理工学科長の仁木教授に、心より感謝申し上げます。

以上

§ 3-2 令和6年度建築都市学部土木工学科学生への技術士第一次試験説明会 開催報告

望星技術士会 藤田 孝康

1. 日時

令和6年6月6日（木）

17:15～18:30（4時限終了後の時間）

2. 場所

東海大学湘南キャンパス

19号館311号教室

3. 参加者

- ・東海大学教員：三神厚教授
- ・東海大学学生：3年生を中心とした26名
- ・東海大学新聞：1名（山南慎之介編集長）
- ・望星技術士会：6名（笠原勉氏、齋藤寛氏、谷徳造氏、桜井裕一氏、庄司大介氏、藤田孝康）

4. 目的

本説明会は「技術士第一次試験説明会」と題して、学生の皆さんに技術士資格を理解してもらうとともに、技術士第一次試験にチャレンジしてもらうことを目的としている。

5. 背景

今回の説明会に先立って、去る令和5年12月19日（火）と令和6年1月9日（火）の2回にわたり出前授業を「土木基礎ゼミナール入門ゼミナールB」の枠内で講義として実施している。

6. 技術士第一次試験受験のすすめ

本説明会（写真1参照）の内容を以下に記す。



写真1 26名の学生が熱心に聞いている状況

（1）はじめに

三神教授より、開会にあたって今回の説明会の経緯や趣旨を説明いただいた（写真2参照）。

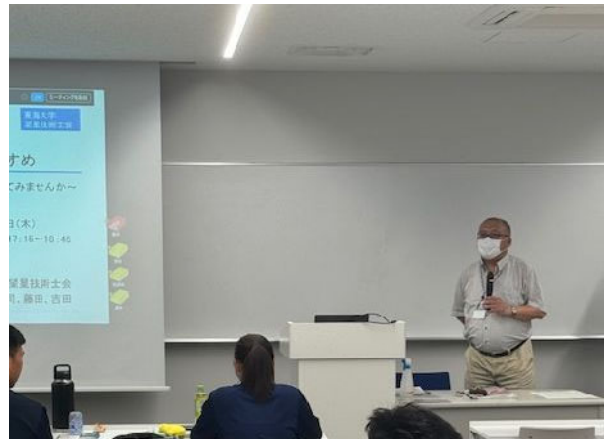


写真2 三神厚教授の開会あいさつ

（2）趣旨説明と試験

今回の目的や概要を以下のとおり説明した（説明者：齋藤氏、写真3参照）。

- ① 望星技術士会とは
- ② 今回の目的
- ③ 技術士資格とは

また、技術士第一次試験の申込み、費用、受験場所、受験日、受験時間、試験方法、合格率などを以下のとおり説明した。

- ① 試験の内容
- ② 試験の概要

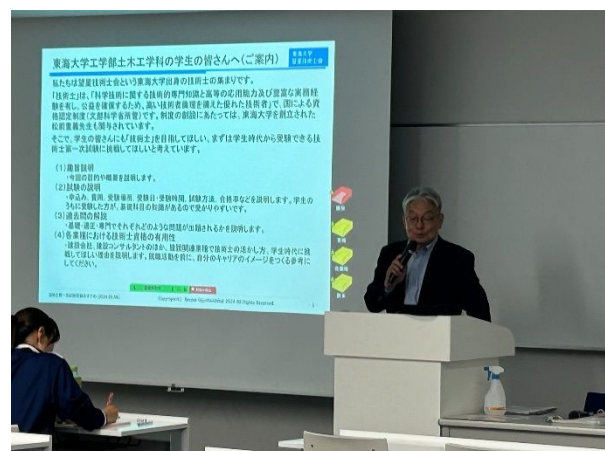


写真3 趣旨説明（齋藤寛氏）

(3) 過去問の解説（基礎・適性）

基礎・適性でそれぞれの科目でどのような問題が出題されるかを説明した（説明者：藤田孝康、写真4参照）。

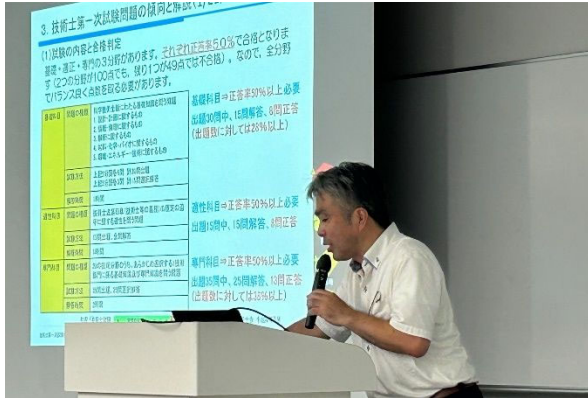


写真4 試験の説明（藤田孝康）

(4) 過去問の解説（専門）

専門でそれぞれの科目でどのような問題が出題されるかを説明した（説明者：庄司大介氏、写真5参照）。



写真5 過去問の解説（庄司大介氏）

(5) 各業種における技術士資格の有用性

建設会社、建設コンサルタントのほか、建設関連業種で技術士の活かし方、学生時代に挑戦してほしい理由を以下のとおり説明した（説明者：庄司氏、藤田、齋藤氏）。

- ① 東海大学建築都市学部土木工学科の卒業後の進路
- ② 土木工学科卒業後のキャリア・イメージ
- ③ 建設コンサルタント
- ④ 建設関連産業
- ⑤ 独立技術士
- ⑥ 建設会社・発注機関

(6) 笠原副会長メッセージ

参加した学生に対して建設業界に就職すれば技術士が必須であり、余裕のある在学中は合格率も高く取得すれば就職にも有利になる。土木工学科の卒業生は一次試験で300名以上(第2位)が必要に駆られて受験し、悪戦苦闘している現状を説明した。建設専門分野の合格の秘訣は、本日の資料を有効的に利用し、不得意科目は最初から捨て、得意分野の過去問を集中的に勉強し、50%以上解答できれば合格すると勇気づけた（写真6参照）。

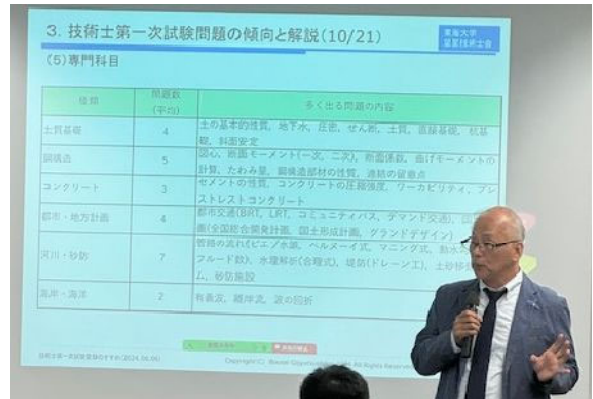


写真6 笠原勉副会長メッセージ

(7) 参考図書の贈呈等

三神教授より、閉会のお言葉を頂き、説明会を終了した。終了後、三神教授に笠原副会長より技術士第一次試験に関する参考図書を贈呈した（写真7参照）。



写真7 図書贈呈（笠原副会長より三神厚教授へ）

7. 学生の皆さんからの質問について

説明会終了後に個別に講師へ技術士資格や第一次試験に関する質問等があった。

Q1) 建設部門を受験しますが、どのような勉強方法が良いでしょうか。

A1) 一番難関は基礎科目であるので、少なくとも過去5年分程の問題を解答出来るようにするのがよい。専門分野は35問中25問解答すればよいので(極端な話)苦手の分野は捨て、得意分野で点数を稼ぐ方向とする。さらに毎年高い確率で出る問題がある程度、決まっているので、その問題は確実に解答できるようにするのが良い。

Q2) 桜井幹事から学生へインタビュー：技術士一次試験を受けようと思った動機は？

A2) 私は未だ一年生ですが、在学中に技術士一次試験を受ける価値があることを今回のガイダンスで理解できました。

8. 雑感、メッセージ

以下に講師および参加者、それぞれの雑感、メッセージを記す。

(1) 齋藤講師

今回は学生の皆さんへ三神先生の積極的な声かけをいただき、多くの出席者がありました。とにかく技術士制度を知ってもらうことがはじめの一步だと思っています。将来の技術者としての自分の成長を思い描いて、最初の挑戦に向かってください。

(2) 庄司講師

1年生から修士まで幅広く学生が参加されており、嬉しい限りです。真剣なまなざしで講義を聴講されており、意識の高さを感じさせてくれました。1名でも多くの学生に技術士第一次試験を受験し、合格を目指して貰えれば幸いです。

(3) 藤田講師

数だけが問題ではないのですが、これまでの説明会参加者で最も多くの方が参加してくれました。参加者の方々には、是非、技術士一次試験に挑戦していただきたいと思います。

(4) 桜井幹事

出席者の数は、期待よりやや少なかったものの参加学生全員の「やる気」の高さを強く感じた。又、一二年生の学生も参加していたので、今後は一二年生を対象にするのも有効ではないかと感じた。

(5) 谷氏

このような説明会を通じ、学生らが技術士第一次試験を受験するとともに、将来的に技術士を目指してくれることの一助となれば幸いである。

(6) 笠原副会長

今回の授業に関しては三神教授が、在学生に要請をしていただき26名が参加してくれました。講師の皆さんの解説を真剣に聞く姿をみて、受験すれば多数の人が合格すると確信した。

[謝辞]

今回の説明会に際して、ご理解及びご協力を頂きました土木工学科の三神教授に心より感謝申し上げます。

以上

§3-3

令和6年度 工学部土木工学科学生への技術士第一次試験直前激励会 開催報告

望星技術士会 藤田 孝康

1. 日時

令和6年10月18日（水）

17:15～18:45（4時限終了後の時間）

2. 場所

東海大学湘南キャンパス

19号館311号教室

3. 参加者

- ・東海大学教員：三神厚教授
- ・東海大学学生：11名
- ・望星技術士会：6名（笠原勉氏、齋藤寛氏、桜井裕一氏、吉田倫夫氏、庄司大介氏、藤田孝康）

4. 目的

本激励会は、1か月前に迫った技術士一次試験に挑戦する学生の皆さんに対し、合格を勝ち取れるように激励することを目的としている。



写真1 激励会の状況

5. 技術士第一次試験 直前激励会

（1）はじめに

三神教授より、開催趣旨説明（写真2参照）。



写真2 趣旨説明（三神厚教授）

（2）趣旨説明

今回の目的や概要を以下のとおり説明（写真3）

- ① 技術士第一次試験の概要
- ② 基礎・適性・専門科目
- ③ おわりに



写真3 趣旨説明（齋藤寛氏）

（3）技術士一次試験の概要

技術士第一次試験の概要を以下のとおり説明した（説明者：齋藤氏）。

- ① 試験の内容
- ② 合格者の推移
- ③ 合格判定

（4）基礎・適性・専門科目

基礎・適性・専門でそれぞれの科目で出題項目や傾向などを各担当で分担し、以下のとおり説明した（写真4, 5参照）。

- ① 基礎科目（藤田）
- ② 適性科目（藤田）
- ③ 専門科目（藤田、齋藤、庄司、笠原）



写真4 専門科目の説明（藤田孝康）



写真5 専門科目の説明(齋藤 寛氏)



写真6 専門科目の説明(庄司 大介氏)



写真7 専門科目の説明(笠原 勉氏)

(1) 藤田講師

今回、参加いただいた学生の皆さん、ありがとうございました。また、申し込んでいただいた学生さんに感謝します。試験日まであとわずか、悔いがないようにしっかり準備していただきたいと思います。健闘を祈ります。

(2) 齋藤講師

技術士第一次試験には相応の準備が必要で、在学中の挑戦が就職後よりも相当有利であると言えます。今後も合格者の実績が積み上がり、学生の皆さんの受験者が増えていくことを期待します。

(3) 庄司講師

集まってくれた学生は意識が高く、熱心に聴講してくれたので、講師陣としても有り難かったです。試験当日までの残り1ヶ月、多忙な学生生活の中ですが時間を捻出し学習を続け、1人でも多くの合格者が出て欲しいと願います。

(4) 笠原講師

建設環境部門では環境影響評価と環境問題の用語説明に関する2題が出題されます。問題を理解させるため挿絵を使い、キーポイントで確実に解答する秘策を伝授しました。最後まで諦めず予想問題を集中して勉強すれば、確実に合格できると励ました。

【謝辞】

今回の激励会に際して、ご理解及びご協力を頂きました土木工学科の三神教授に改めて心より感謝申し上げます。以上

(5) おわりに

学生の皆さんに向けて、技術士第一次試験での注意事項とともに、建設業界では技術士資格が必須であり、就職活動にも有利な資格であること、学生のうちから取り組むことが重要であることを説明し、是非合格できるようがんばって欲しいとのメッセージで締め括った(説明者：庄司氏)。

6. 雑感、メッセージ

以下にそれぞれの講師における雑感、メッセージを記す。

§ 3-4 令和 6 年度 海洋学部海洋理工学科生への技術士第一次試験説明会 開催報告

吉田倫夫

1. 日時

令和 6 年 10 月 16 日 (水)

17:00~18:40 (100 分)

2. 場所・方法

・場所：東海大学静岡キャンパス

3 号館 3 階 3327 教室

・方法：対面

Web 会議 (Zoom) を併用した

3. 参加者

・東海大学教員：仁木教授

・東海大学学生：12 名 (海洋理工学科 2 年生、3 年生)

・望星技術士会役員が所属する企業の卒業生：4 名 (2 社)

・望星技術士会：対面 3 名 (笠原氏、吉田氏、藤田氏)、Web2 名 (齋藤氏、久一氏)

4. 激励会

本激励は、技術士第一次試験を受験する学生を対象に関連情報を提供することを目的として開催したものである。なお、望星技術士会の役員が所属する企業に在籍する卒業生にも試行的に Web 参加した。

(1) ご挨拶・・・仁木教授

今回の説明会の主旨を説明いただいた。

(2) 基礎・適性科目・・・吉田氏

適性・基礎科目の 5 年間の過去問から、繰り返し出題される問題が示されその具体的な解答手法を解説しました。(写真 1 参照)

(3) 専門科目 (環境部門)・・・笠原氏

専門科目について、難解な水質・土壌分析等の出題は避け、解答できる 25 問の選択が重要とアドバイスされた。自然環境計画・保全に関する問題では、そのメカニズムを挿絵で示しキーポイントで解説され、過去問から今年の予想問題が提案された。(写真 2 参照)

(4) おわりに・・・仁木教授

本日の内容を基本に的を絞った予想問題の解答が、合格の秘訣となるので、諦めず集中した勉強が重要と締め言葉で終了した。



写真 1 激励会風景【対面】吉田講師



写真 2 激励会風景【対面】笠原講師

5. 終わりに

海洋学部海洋理工学科の学生の皆さんが、一人でも多く技術士第一次試験に挑戦し、学生時代に合格してくれることを期待しています。

[謝辞]

今回の激励会に際して、ご尽力頂きました海洋理工学科長の仁木教授に、心より感謝申し上げます。

以上

令和6年度 札幌キャンパス生物学部生物科学科出前授業開催報告

望星技術士会 綿貫 啓

1. 開催趣旨

生物学部生物科学科の学生にとって、技術士は土木工学科に比べ馴染みの薄い資格であるが、卒業後に水産・環境分野で建設コンサルタントや環境調査会社、建設会社の環境部門に就職する例は増加している。これらの分野では、人工魚礁や増養殖施設の調査・設計・モニタリング業務に関わる機会が多く、技術士資格を取得することで管理技術者として活躍できる。本出前授業では、技術士の紹介を通じ、学生が自らの専門性を社会で活かす将来像を描けるよう促した。資格説明に留まらず、生物科学の知見の現場活用や、一次試験合格が就職・キャリア形成に有利であることも伝えることとした。

OB技術士による生物学部在学学生への出前授業

「技術士」という国家資格をご存じですか？技術士は科学技術分野で最高の国家資格で、学生のうちに一次試験を受けると就活でも有利です。卒業後資格を取れば収入アップが期待できます！
望星技術士会は、技術士資格の魅力を伝えるために活動中です。今回の講演では、生物学部の学生向けに資格取得後に可能となる多彩なキャリアや一次試験科目の概要、効率的な勉強方法を解説します。
さらに、技術士として活躍する3名の講師が北海道での実体験を含むエピソードをお話します。この機会に、技術士への挑戦を目指してみませんか？

出前授業の案内 講師：望星技術士会
日時：2024年11月25日(月) 17:10～18:50
場所：東海大学札幌キャンパス N311教室

就活で期待と不安が交錯する学生たちにOB技術士が優しく語ります

・生物学部卒業生が活躍する業界の紹介(17:30～17:40)
1)環境分野(水産・環境分野) 2)人工魚礁・増養殖施設の調査・設計
3)漁業での自然環境の保全・調査 4)ブルーカーボン生態系の活用

建設コンサルタント業務紹介-ドローンレーザー測量による植生調査の例
(17:40～18:10)
1)山地治水事業の紹介 2)ドローンレーザー測量を使用した下層植生調査の事例
3)技術士として大切なこと

何故、技術士第一次試験を目指すのか(18:10～18:30)
1)建設コンサルタントの業務 2)就活におけるアドヴァイス(採用側の視点から)
3)学びのスタート 4)自律学習 5)熱意

講師紹介
・佐藤 三三男 技術士(建設部門) 建設コンサルタント
・エイコー 敬 技術士(建設部門) 建設コンサルタント
・中ノ島 島 技術士(建設部門) 建設コンサルタント

会場：N311教室

出前授業のポスター

2. 授業の概要

- 1) 日時；令和6年11月25日(月) 17:10～18:50
- 2) 場所；札幌キャンパス N311 教室

3) 参加者

- ・生物学部海洋生物科学科：大橋正臣教授
- ・望星技術士会：綿貫啓、佐藤二三男、
鳥本博靖、重野聖之、松下博紀
- ・学生：6人＋教員

3. 講義の内容

- 1) 「趣旨説明」 大橋教授
- 2) 「生物学部卒業後に活躍できる業界の紹介」 綿貫講師 (25分)
- 3) 「建設コンサルタント業務紹介-ドローンレーザー測量による植生調査の例」 鳥本講師 (25分)
- 4) 「何故、技術士第一次試験を目指すのか」 佐藤講師 (25分)

綿貫講師は、藻場造成、磯焼け対策、サンゴ増殖、人工魚礁の調査・設計や保全技術の開発事例を紹介し、近年ブルーカーボンとして藻場の炭酸ガス吸収機能が注目され、生物学部卒業生の活躍の場が広がっていることを示した。鳥本講師は、山地治水事業においてドローンレーザーを活用した広域の地形と樹種の自動判別等の植生調査の事例を紹介し、管理技術者としては技術士資格が求められることを説明した。佐藤講師からは、建設コンサルタントの業務概要を紹介し、多様な仕事を進めるには様々な資格取得が有利である。特に技術士一次試験合格者は就職活動に極めて有利であること、自ら進んで学ぶことの重要性を力説した。

最後に、技術士第一次試験の受験の仕方に関するガイダンスを行った。講義終了後、講師に熱心に質問する意欲的な学生の姿が見られ、講師たちも大いに喜んだ。

[謝辞]

出前授業の開催にご尽力いただいた大橋正臣教授、櫻井泉教授、生物学部関係者の皆様に感謝申し上げます。なお、2024年度は同学部から学生3名、卒業生4名の計7名が技術士一次試験に合格しました。おめでとうございます。

1. 日時

令和6年12月5日（木）

1 限目 9:00～10:40（100分）

2. 場所

東海大学湘南キャンパス 19号館311教室
（対面授業）

3. 出席者

- ・ 建築都市学部建築学科 渡部憲教授
- ・ 望星技術士会 永井和典（講師）、齋藤寛
- ・ 建築都市学部建築学科学生（1年生）104名

4. 出前授業

- (1) 趣旨説明：渡部教授
- (2) ビデオ視聴（空調衛生設備の事業紹介・仕事紹介：日本空調衛生工事業協会作成）
- (3) 「生産・構法B」（施工入門的な講義内容）
川本工業(株)と共催

（構成）

- ・ 講師経歴
 - ・ 建設業の仕事内容、やりがい・向いている人
 - ・ 建設業の生産体制・発注形態について
 - ・ ゼネコン・サブコン、設計事務所について
 - ・ 大企業・中堅企業・中小企業の違いについて
 - ・ 建築と空調衛生設備の接点について
 - ・ 1級建築士と技術士試験について
 - ・ 施工管理の実際について 他
- （講義概要）

まずは渡部先生に趣旨説明をしていただき、建設業の仕事内容について、営業、設計、施工管理の各業務に関する話をしてから、建設業のやりがいや実態について説明しました。また、ゼネコンや設計事務所の各種ランキングや、業務を通じた各社の印象など、生々しい話もさせていただきました。

プロの専門家としての経験や知識を活かしたリアルな体験談に触れ、学生の皆さんが自分の将来について、考えるきっかけになったのではないかと自負しています。

建設業(建築系)では、1級建築士の資格が重要視されていますが、より高い次元での仕事に携わるためには、技術士の資格が不可欠となります。また、在学中に技術士一次試験に合格することにより、就職活動で自分の能力や向上心を、客観的な評価としてアピールすることが可能となります。今回の講義を通じて、技術士資格に興味を持ってもらえたことは、望星技術士会の学生向け普及活動として、とても意義があったと感じています。



講義風景-1



講義風景-2

5. 講義を終えて（謝辞）

学生の皆さんの真剣な受講姿勢に触れ、講師としても身の引き締まる思いでした。

最後になりますが、今回の講義に際してご理解とご協力をいただいたすべての皆様に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

§3-7 令和6年度 湘南キャンパス建築都市学部入門ゼミナールBでの出前授業 報告

望星技術士会 藤田 孝康

1. 日程：

令和7年 1月 14日（火）

2. 時間：

17:15～18:55（5時限目）

3. 場所：

東海大学湘南キャンパス
19号館 311号教室

4. 参加者

- ・東海大学教員：三神 厚教授
- ・東海大学学生：71名（2年生）
- ・望星技術士会：齋藤寛氏、庄司大介氏、竹内章裕氏、豊田雅之氏、笠原勉氏、吉田倫夫氏、藤田孝康

5. 目的・概要

湘南キャンパスでの出前授業は、建築都市学部入門ゼミナールB（必修）のうち、1コマの講義を望星技術士会が担当し、学生に技術士の有用性や有効性を知ってもらい、より多くの学生に技術士補取得を目指して貰うことを目的としている。なお、望星技術士会の参加は、令和2年度から実施しており、本年で5年目である。

6. 講義

講義の概要は、以下のとおりである。

17:15～17:20：三神教授より趣旨説明（写真1）。

17:20～17:35：望星技術士会齋藤氏より、望星技術士会、技術士制度、および第一次試験の概要を説明（写真2）。

17:35～17:55：庄司講師より、建設コンサルタントである勤務先企業の概要や実績、技術士の位置づけ等を説明（写真3）。

17:55～18:20：竹内講師より、技術系公務員の仕事や技術士資格の活用について説明（写真4）。

18:20～18:45：学生の豊田氏より、技術士試験への挑戦、勉強方法、合格後の活用方法等について説明（写真5）。



写真1 趣旨説明（三神教授）

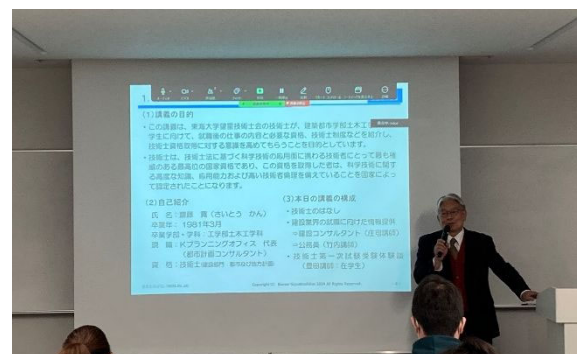


写真2 講義概要（齋藤講師）



写真3 建設コンサルタントと技術士（庄司講師）

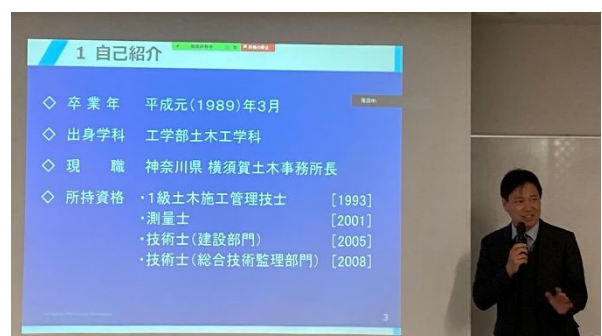


写真4 技術系公務員と技術士（竹内講師）

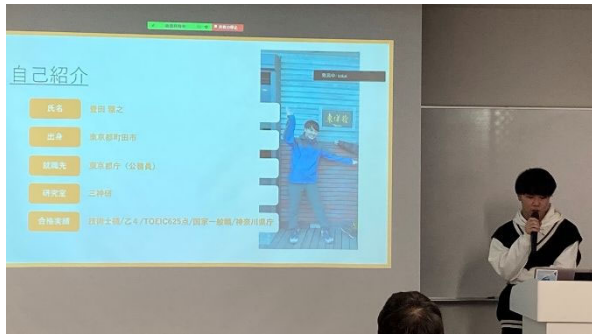


写真5 受験体験談（豊田氏）



写真6 講義風景

7. 雑感、メッセージ

以下にそれぞれの雑感、メッセージを記す。

（1）齋藤講師

「技術士のはなし」として、技術士制度と第一次試験の基本的な情報提供、そして在学中の第一次試験受験への挑戦を私たちが応援しているというメッセージを伝えました。

在学生の皆さんの意識が高まれば、将来の技術者として成長の可能性が大きく広がるものと期待しています。

令和7年度の試験に多くの学生が挑戦してくれることを望みます。

（2）庄司講師

自分の仕事で得た経験を通じて、建設コンサルタンツを中心とした仕事の紹介と技術士資格の有用性について講義しました。受講した学生が、将来の仕事について少しイメージを持ち、これからの学生生活をより充実した時間として過ごせることを願います。また、この中から1人でも多くの技術士が誕生して貰いたいと思います。

（3）竹内講師

インフラの整備や維持管理は、住民生活や地域経済を支える重要な仕事であり、その魅力ややりがいがい少しでも伝われば幸いです。

仕事を進める上で直面するトレードオフへの対応、利害関係者との合意形成、リスクマネジメントなどは、技術士に求められる資質とも関係しているので、どの分野に進むとしても資格取得に挑

戦する価値はあると思います。学生の皆様には大いに期待しています。

（4）豊田雅之氏（体験談）

学年が近い先輩として、どのような生活を送っていたか、そこで何を得られたのか反省も踏まえてこれから何がしたいか考えるきっかけとなれば幸いです。やりたいこと、なりたい自分を見つけ残りの大学生活が充実したものになることを願っています。

そのために技術士をはじめ、いろんなことに挑戦してみてください！

（5）笠原勉副会長（最後に）

出前授業の最後に、望星技術士会を代表して学生に技術士資格の受験を提案しました。土木工学科では、公務員を含め約8割の学生が建設業界への就職を希望しており、管理技術者として必ず技術士資格の取得が求められます。卒業生の多くが一次・二次試験に挑戦し、毎年約400名が受験していますが、準備不足もあり、合格率が低い現状です。望星技術士会では受験対策を指導しますので、ぜひ一次試験を受験し合格してください。そして、就職後は社会経験を積み、二次試験に備えてください。

〔謝辞〕

今回の激励会に際し、ご理解およびご協力を頂きました土木工学科の三神教授に、改めて心より感謝申し上げます。

以上

§ 3-8 令和6年度 海洋学部海洋理工学科学生への出前授業 開催報告

吉田倫夫

1. 日時

令和7年1月9日（木）

13:20～15:00（3時限、100分）

2. 場所

東海大学静岡キャンパス

3号館 4階 3419教室

3. 参加者

- ・東海大学教員 1名：仁木教授（海洋理工学科）
- ・東海大学学生 59名（海洋学部海洋理工学科1年生）
- ・望星技術士会 4名：笠原氏（講師）、吉田氏（講師）、渡辺氏、藤田氏

4. 出前授業概要

本授業は、海洋学部海洋理工学科の1年生を対象とした入門ゼミナールBの授業の1コマをいただき、59名の学生の皆さんが出席してくれた。なお当日はインフルエンザや新型コロナの流行で、欠席者が多かったとのこと。

（1）はじめに・・・仁木教授 [5分]

入門ゼミナールBで、東海大学望星技術士会による特別講義を行うこと、講師はいずれも技術士資格を有する東海大学OBであることなどのご紹介をいただいた。（写真1参照）

（2）技術士の必要性和海洋学部卒業後の業界・業種の紹介・・・笠原勉氏（全国水産技術者協会、元いであ） [45分]

笠原氏は、建設・環境コンサルタント業務の入札制度の変遷と技術士の重要性を説明し、体験した大規模な藻場再生や生態系保全業務を画像で解りやすく解説した。（写真2参照）

- ・技術士の必要性：①技術士とは ②業務受注での入札制度 ③技術士の必要性
- ・卒業後活躍できる業界・業種：①建設・環境コンサルタント業界・業種 ②技術士で体験した業務の紹介 ③今後期待できる多様な業務の紹介

（3）技術士第一次試験の概要と沿岸域での体験業務・・・吉田倫夫氏（ナカボーテック） [45分]

吉田氏は、学生時代の就職活動を語り、沿岸域における港湾構造物の防食技術と維持管理を施工事例で解説した。さらに、技術士一次試験概要や合格のキーポイントと受験部門を詳細にアドバイスした。（写真3参照）

- ・技術士第一次試験の概要：問題の種類、解答時間、配点、試験スケジュール、受験申込期間、試験日時、技術士2次試験の概要など
 - ・自分の就職活動、海洋学部海洋科学科（物理、化学、生物系）の場合
 - ・技術士2次試験合格後のキャリアパス
 - ・技術士（建設部門、総合技術監理部門）だからできる仕事の内容
 - ・会社での専門は（金属部門・水産部門）の仕事
- （4）挨拶・・・渡辺竜之氏（日本ミクニヤ） [5分]

渡辺氏は、海洋学部での学生生活、卒業後技術士取得の苦労話や活躍を楽しく語り締めの言葉で和気あいあいの雰囲気となった。

（5）おわりに・・・仁木教授 [5分]

仁木先生より授業のまとめ、講師へのお礼があり、アンケートへの回答をもって出席にすることが説明された。



写真1 授業風景、仁木教授



写真2 笠原氏



写真3 吉田氏

5. 授業アンケート結果

授業終了後に実施されたアンケート結果を以下に示す。回答総数59名

(Q1) 技術士について知っていましたか？

- ・知っていた 23 (39%)
- ・知らなかった 36 (61%)



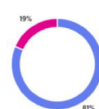
(Q2) 技術士資格を取得してみたいと思いましたが？

- ・思った 52 (88%)
- ・思わなかった 7 (12%)



(Q3) 学生の中に技術士第一次試験を受験してみたいと思いましたが？

- ・思った 48 (81%)
- ・思わなかった 11 (19%)



6. 公式SNS

出前授業の様子は、海洋理工学科の公式SNS (Instagram) にアップされた。

https://www.instagram.com/p/DE6evW6yh2j/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzRlODBiNWFlZA==

また望星技術士会の公式SNS (Facebook) にもアップされた。(2025. 01. 17)

<https://www.facebook.com/groups/807738516019685/user/100084391362636>

7. 参加者雑感

(1) 笠原氏

海に憧れ海洋開発という言葉に魅了されて入学した海洋学部、そんな夢を抱いて入学した人もいるのではないかと思います講演しました。体験した海洋環境コンサルタント業務は、管理技術者として技術士が必須であり重要性を解説した。在学生の

皆さんは最後まで楽しそうに聴いてくれ、大多数が受験すると宣言し成果を感じました。

(2) 吉田氏

一昨年、昨年に続いて、出前授業の講師を勤めることができました。今回、インフルエンザや新型コロナの影響で欠席者も多かったとのことでしたが、59名が出席し、技術士資格を取得してみたいと思ってくれた学生が52名 (88%)、学生の中に第一次試験に挑戦してみようという学生が48名 (81%) いてくれたことに勇気付けられました。また、このような機会を得たことをたいへん嬉しく思いました。

(3) 渡辺氏

気が付けば卒業して30年が経過してしまっていました。5分程度とはいえ母校の学生さんたちを前に話す機会が持てたことは、貴重で嬉しい経験でもありました。微力ながら今後も貢献できればと思います。引き続き宜しくお願い致します。

(4) 藤田氏

ここ数年、湘南土木での出前事業や説明会に参加させていただいています。今回は、清水キャンパスでの出前授業に参加させていただき、いずれのキャンパスでも参加の学生さんは熱心にお聞きいただいています。また、1,2年生では技術士自体やその有効性がまだまだ認知されていないと改めて実感しています。学生さんには、是非、技術士一次試験に挑戦していただき、有効に活用していただきたいと願っています。

[謝辞]

本授業は一昨年、笠原氏副会長代表 (当時) から海洋学部長へ要請文を出し、齋藤学部長、仁木海洋理工学科長などのご尽力により実現したものである。一昨年、昨年に続き今年で3回目の出前授業となる。出前授業の実施に際し、ご理解とご協力を賜りました仁木教授に改めて心より感謝申し上げます。

以上

§ 3-9 工学部機械システム工学科出前授業 開催報告

望星技術士会 齋藤 寛

1. 日時

令和6年12月5日（木）

4限目 15:20～17:00（100分）

2. 場所

東海大学湘南キャンパス 16号館503教室
（対面授業）

3. 出席者

- ・工学部機械システム工学科 落合成行教授
- ・望星技術士会 杉山耕治（講師：㈱ミヨシ代表取締役）、永井和典、齋藤寛
- ・工学部機械システム工学科学生（1年生）
139名

4. 出前授業

（1）趣旨説明：落合教授

（2）東海大学望星技術士会の紹介：齋藤寛

（3）「入門ゼミナールB」～OB・OGに聞く～：
杉山講師

〔構成〕

- ・経歴
- ・就職先を決めた理由
- ・何のために働くのか
- ・今の仕事
- ・資格取得のすすめ
- ・（株）ミヨシの仕事内容詳細
- ・技術者がスキルを上げることの意義

〔講義概要〕

杉山講師から、学生に向けて以下の3つの問いが投げかけられた：

- ・「自分にとって何に関心があるか」
- ・「仕事を何のためにするか」
- ・「社会に出て何をやりたいか」

これらの問いを通じて、自分に何ができるか、何をやりたいかを考えることが将来の進路を考えるポイントとなること、また、目標を定めることの重要性が示された。

杉山講師は、現在の仕事（㈱ミヨシ代表取締役、㈱技術継承機構顧問（技術、経営））や団体活動の紹介を通して、以下のメッセージを伝えた。

- ・資格取得のすすめ：資格はその人の能力の証明であり、スキルや経験のある人材を企業は優遇する。
- ・技術者が知識や経験を身に付ける意義：それは大きな財産になり社会的にも価値がある。
- ・若い時の勉強は投資；年を重ねるごとに、そのリターンには大きな差がつく
- ・技術の重要性：技術は地球上の生物が持続的に繁栄するために不可欠である。

以上、学生が将来の進路や目標設定を意識するきっかけとなる有意義な講義であった。



杉山講師



出前授業の様子

〔謝辞〕 工学部の新たな学科の出前授業の開催にご尽力いただきました落合成行教授、本会会長の山本佳男工学部長をはじめ関係者の方々に感謝申し上げます。

技術士が繋ぐ縁

1. はじめに

はじめまして、重野と申します。1996年に海洋学部海洋資源学科を卒業しました。幼少期から海への憧れが強く、大学時代はスキューバダイビングに熱中し、学業は二の次になることもありましたが、大学4年進級直前の阪神・淡路大震災で実家が被災。この経験が、「防災」分野で社会貢献したいという強い思いへと繋がりました。

2. 地質コンサルタントでの苦悩

卒業後は、ご縁あって地質コンサルタント会社に就職。希望通り地質部門に配属され、活断層や津波堆積物など、防災・減災に関わる地質調査に携わってきました。しかし、学生時代の勉強不足もあり、専門知識や周囲との実力差に苦悩する日々でした。そんな時、心の拠り所となったのが母校です。海洋学部の先生や先輩、後輩たちとの交流は、私に再び前を向く勇気を与えてくれました。

3. 技術士試験への挑戦

技術士資格は、会社から強く推奨されていましたが、私は40代になっても取得できず、肩身の狭い思いをしていました。しかし、長年続けてきた学会発表の経験が、技術士試験への意識を変える転機となりました。講演要旨作成等で培った論理的思考力や文章構成力が、試験の答案作成と共通することに気づいたのです。論文を書くように答案作成に取り組むことで、試験への苦手意識が薄れていきました。そして、ある年、試験問題が私の専門分野である自然災害に関わる地質調査に集中して出題され、筆記試験を突破できました。

4. 口頭試験突破

筆記試験合格の喜びも束の間、次は難関の口頭試験が待ち受けていました。どのように対策を進めれば良いのか全く見当がつかず、途方に

重野 聖之

(しげの きよゆき)

海洋学部海洋資源学科 1996 年卒

技術士（応用理学部門/地質）
博士（理学）

明治コンサルタント株式会社



暮れていた頃、大学の同窓会に参加する機会がありました。そこで、思いがけない出会いが私を待っていました。

たまたま隣の席に座られた土木工学科の先輩が、技術士（総合技術監理部門）の資格をお持ちだったのです。私は、薫にもすぎる思いで、口頭試験について相談させていただきました。その場では、先輩は笑顔で話を聞いてくださるだけでしたが、後日、驚くべきことに、先輩から連絡をいただいたのです。

先輩は、初対面の私にも関わらず、わざわざ他社の技術士の方々3名を集めてくださり、会社の会議室を借りて、模擬面接の練習の機会を設けてくださいました。専門的な視点からの的確なアドバイスや、試験官の視点を意識した質問など、実践的な指導を受けることができ、大変心強く感じました。そのおかげで、本番の口頭試験では、落ち着いて自分の考えを伝えることができ、無事に合格することができました。

5. 技術士が繋ぐ縁

技術士資格取得は、私に素晴らしい出会いと成長の機会を与えてくれました。同窓会で出会った先輩とは、その後、トンネル工事の現場など、仕事を通じて交流する機会が増え、公私ともに親交を深めさせていただいております。特に、地方の現場では、顔見知りの先輩がいることが、どれほど心強い支えとなるか、身をもって実感しました。今度は、私がその恩返しをする番と思っています。私は先輩に助けられて、技術士の資格を取得することが出来ました。次は自分に続く後輩の技術士を育てる立場になりたいと思っています。

技術士一次試験及び就活体験記

1. はじめに

はじめまして。村上と申します。現在、建設コンサルタント業界を志望して就職活動を行っております。就職活動を進める中で、技術士一次試験の取得が非常に有効であると感じました。この経験を後輩の在学生にお伝えすることで、少しでも皆様のお力になればと思い、このような機会をいただき執筆させていただきました。

2. 技術士一次試験取得の経緯

私は、建設コンサルタント業界に非常に強い興味を持っておりまして、そこで、望星技術士会の出前授業などを通じて、技術士一次試験合格が建設コンサルタント業界での就職活動において非常に有効であるというお話を伺うことができました。こうした経緯から技術士一次試験に挑戦することを決めました。

3. 技術士一次試験勉強方法

私は、基礎を固め過去問題を中心に勉強しました。基礎・適性科目では、聞いたことのない単語や技術者に関する法律関係の問題が出ます。そのため、大学の勉強とは別途対策が必要だと感じました。具体的には、基礎・適性検査の要点をまとめた参考書と過去問題で対策を行いました。専門科目は、3力（土質・構造・水理）と計画系、材料系といった必須分野の比率が高く、大学での講義内容を十分に理解することが重要だと感じました。また、大学の講義がない分野でも、過去問題と類似した問題が多く出題されるため、過去問題を繰り返し解くことで対策が可能です。私は、必修科目に加え、過去問演習と望星技術士会の出前講座でいただいた資料を活用することで、十分に合格点を狙えると感じました。

村上 翔海

(むらかみ かける)
工学部土木工学科 2024 年卒

技術士一次試験合格
(建設部門)



過去問題は「問題に慣れる」「類似問題の出題傾向を掴む」という意味でも非常に効果的です。これはあくまで私の方法ですので、参考程度にとどめていただき、自分に合った勉強法でがんばってください！

4. 就職活動での技術士一次試験

私は、建設コンサルタント業界を中心に就職活動を行いました。活動の中で、技術士一次試験の合格や JABEE 認定、さらに技術士二次試験に関する質問を多く受けました。このことから、建設コンサルタント業界では技術士一次試験の合格が非常に重視されていると実感しています。また、入社後については、技術士二次試験に5年目（総合技術監理部門では8年目）という早い段階から挑戦できるため、早期の資格取得に繋がります。社会人としてのキャリア形成からも、技術士一次試験は非常に重要と感じています。

5. 最後に

建設業界には、建設コンサルタントをはじめ、公務員、ゼネコン、メーカーなど様々な業種があり、業種や企業によって業務内容や社風は大きく異なります。その為、先生方や先輩方の意見を多く伺い、参考にすることが重要です。様々な意見を取り入れ、最終的に自分のやりたいことや働きたい環境を考慮し、納得できる選択をしていただければと思います。皆様が後悔のないような選択をすることをお祈りします。

町工場と技術士

怠惰な学生時代と社会に出て

私は学生時代に勉強をする目的が見いだせずガソリンスタンドでアルバイトばかりしていた。そんな中、大学で環境に関する講義を受け、感銘を受けた。ごみをエネルギーに変える仕事をしたいと考え、廃棄物処理プラント関連の三造環境エンジニアリングに入社した。

入社してすぐ、学生時代に勉強を怠ったことを後悔し、仕事をしながら足りない知識を必死で補った。先輩方は技術的な知識に優れていたが、なかでも決断力があり、倫理観を備えた部長の姿勢に強く惹かれた。

技術士を目指すきっかけ

私は、どうすれば部長のような技術者になれるのかをたずねた。すると、「技術士を目指なさい」と助言を受けた。当時、技術士について何も知らなかったが、難関資格であることは理解した。勉強を進めるうちに、技術士試験が単なる知識試験ではなく、技術者としての倫理観や判断力も問うものであると気づき、なぜ技術士を勧められたのかを理解できた。

事業承継のために金型職人に

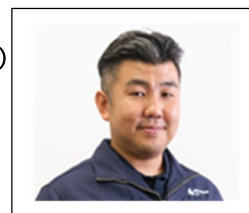
私の父は町工場を経営していた。モックアップ試作、射出成形金型と小ロット成形を行う株式会社ミヨシである。私は3人兄弟の二男で会社を継ぐ予定ではなかったが父からの要請で家業を継ぐためにミヨシに入社した。入社後、金型製作を命じられ最初は意気込んで取り組んだが、「仕事は見て盗め」「見ていると気が散るから向こうへ行け」など、職人基質に直面し、技術を学ぶ厳しさを痛感した。入社まもなく、金型製作を指導できる社員3人のうち2人が退職し、指導してくれる人がいなくなってしまった。頼りに出来たのは、先輩たちがボロボロになるまで使い込んだ古い技術書だった。

杉山 耕治（すぎやま こうじ）

工学部生産機械工学科 2001 年卒

技術士（機械部門）

株式会社ミヨシ



重要な部分はアンダーラインが引かれ、現場で気づいた点がメモされていた。

経験がなければ気付けないものづくりの勘所などは、作ったものを近所の金型屋に見せに行き教わった。ダメなところを教えてもらいどうやったらうまくいくかを聞き、それを実践した。最初はきつい物言いだったが自分では気づけないことを教えてくれてありがたかった。先人の技術者たちが培ってきた技術に敬意を払う事の大切さも学んだ。

金型製作の技術習得と並行して、独学で技術士試験に挑戦した。町工場には技術士の先輩もおらず孤独な戦いだったが、2012年3月に合格した。12月には先代から事業を引き継ぎ、株式会社ミヨシの代表取締役役に就任した。

技術士と会社経営

代表に就任して12年が経過した。技術士資格は会社経営にも大きな影響を与えている。

ものづくり企業として「公益確保」「信用失墜行為の禁止」を重視し、ミスを隠さず報告する文化を定着させた。ミスは記録し全員で共有・水平展開することで組織全体の成長につなげている。私自信も例外ではなく、ミスがあれば必ず記録する。

また社員が仕事に満足する条件には「自己成長」と「社会的評価」が不可欠と考え、社員一人一人の「資質向上」を促している。資格取得時には報奨金や昇給を行い、自己学習に必要な書籍、講習費用等を申請すれば年間20万円まで会社が負担する仕組みを設けている。

自ら技術士である経験を活かし、技術者に求められる倫理観や資質向上を、会社の基本方針として根付かせることが出来ている。

§5 会員イベント講演会

令和6年度 望星技術士会講演会報告書 ー箱根駅伝選手への低酸素環境トレーニングー

会員イベント運営委員会 桜井裕一

1. 日時
令和6年9月23日（月）14:00～15:30

2. 講師
東海大学体育学部競技スポーツ学科
助教 丹治史弥先生

3. 講演テーマ
「箱根駅伝選手への低酸素環境トレーニング」

4. 開催方法
ZoomによるWeb開催方式

5. 申込者数：32名（当日参加者数：22名）

6. 講師紹介



たんじ・ふみや
1990年奈良県生まれ。
2015年筑波大学大学院
人間総合科学研究科体
育科学専攻修了。
17年博士(体育科学)取
得。19年から東海大スポ
ーツ医科学研究所助教
に着任。21年4月から
現職。

写真-1 丹治史弥助教
主な研究テーマ：ランニングエコノミー、
低酸素トレーニング

7. 講演内容

1) 高地トレーニングの背景

1968年開催のメキシコ五輪に於ける陸上短距離・跳躍・投擲種目において、多数の世界記録&オリンピック記録が更新された。ただし、中距離・長距離種目は記録低下した。長距離種目の記録の低下を科学の力で抑制できないかという目標で検討を開始した。開催都市が標高2,000m以上のメキシコシティであることに注目し、どのようなトレーニングが効果的か研究を進めている。

2) 高地トレーニングの種類

- ① Living-High, Training-High
(高地滞在、高地トレーニング)
② Living-High, Training-Low
(高地滞在、低地トレーニング)

- ③ Living-Low, Training-High
(低地滞在、高地トレーニング)

3) パフォーマンスへの効果

- ① Living-High, Training-High モデルは日本での実施が適さないのでは？4週間の滞在は時間とお金がかかる。
② Living-Low, Training-High モデルは東海大学湘南キャンパス内でも低酸素環境を整備することで実施可能で、短期間でパフォーマンスを高めることが期待される。

高地トレーニングによるパフォーマンスへの効果

3. Living-Low, Training-High (低地滞在、高地トレーニング)



4) 箱根駅伝選手への高地トレーニング活用

令和7年度より湘南キャンパス内に低酸素室などの新たなトレーニング設備が整う予定であり、令和8年の箱根駅伝優勝を目指し選手指導を行って行きたいとの報告であった。



写真-2
湘南キャンパス 15号館に設置されている低酸素テント。丹治助教のアドバイスの下、駅伝チームの選手らがトレーニングに励む

5) 質疑状況



写-3 チャットによる質疑状況

チャットに多くの質問が寄せられ丹治先生の的確な回答により参加者が見識を深めることが出来た。

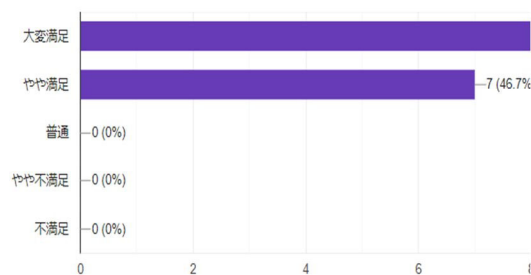
8. おわりに

丹治先生の分かり易い解説が進み、あっという間に 60 分が過ぎて行ったという印象だった。また、20 分間の質疑も時間が足りないほど活発な意見が飛び交い有意義な講演となった。ただし、当日の出席者が 22 名と当初の申込者数 (32 名) より減少してしまったことが残念である。会員イベントに関するアンケートの回答を参考に、今後の会員イベント運営の改善に繋げたい。

9. 参考資料 (アンケート結果)

今回の講演会の内容に関して

15 件の回答

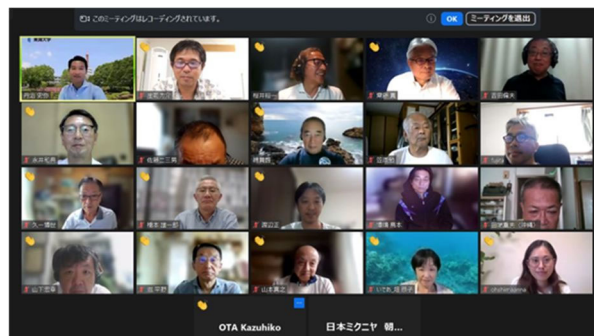


＜今後の講演会のテーマに関するご意見＞

- ① 可能であればラグビー部の取り組みを科学的な知見も踏まえ学びたい。
- ② 能登半島地震と洪水の二重災害の分析と課題
- ③ 地球温暖化で生じてきている現象と有効な対応策
- ④ メンタルトレーニングに関する講演

⑤ 自然災害に関する内容

⑥ 東海大学の強い他の競技、柔道、バスケットボールなどのメダリストによる講演



写-4 参加者集合写真

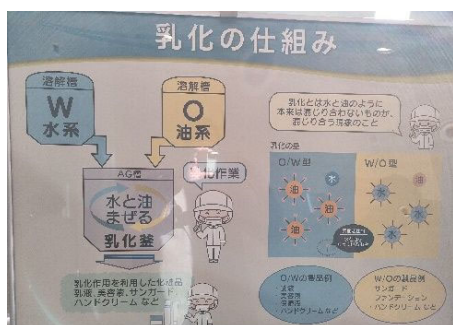
以上

日本技術士会主催施設見学会参加

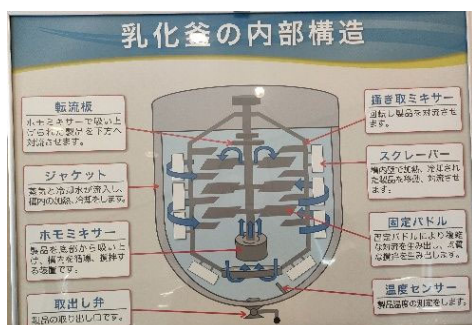
経営工学部会 11 月見学会

2024 年 11 月 22 日に日本技術士会の経営工学部会主催の施設見学会に参加しました。見学先は私の地元、千葉県野田市近辺の 3 企業（ファンケル美健、窪田酒造、雪印メグミルク）です。

1. (株) ファンケル美健 千葉工場：サプリメントや化粧品の製造ラインを視察し、清潔で安心・安全な製造プロセスを学びました。ファンケル美健 化粧品のポイントは美の妨げになる添加物がないことで、施設は①クリーン（4F のクリーンレベルは class100 と非常に高い）、②外気に触れない、③人に近づけないなどで清潔さを保ち設備は純水で洗浄するなどの徹底さでした。



写真は、乳化（水分と油分を均一な混合物にする）の仕組みと乳化釜の内部構造を表したものです。



見学後の Q & A で今後の検討課題の問いに対し、品質管理担当者様からは、「もっと何かできる筈と常に考えており、現在のバーコード管理から QR コードの利用や生成 AI の利用を検討している」とのことでした。

次の見学施設までは利根運河を越えた川沿いのすぐ近くにあるため、徒歩で向かいました。

平野 滋 (ひらの しげる)

工学部経営工学科 1975 年卒

技術士（経営工学部門）

平野技術士事務所

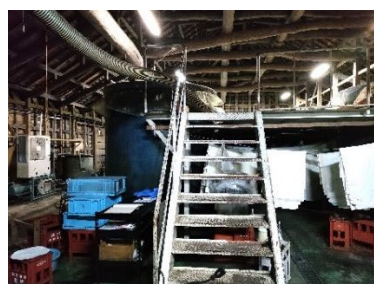


2. 窪田酒造 (株)：滋賀県出身の初代社長が茨城県に酒造会社を設立しましたが、明治 7 年に良質な水と利根運河を利用できる野田市に酒造設備を移築して酒造りを始めました。見学会当日は窪田社長様が快く出迎えてくださり、自ら窪田酒造の歴史や酒造りの製造工程案内をして頂きました。

日本酒の「純米酒」は、米と米麹、水だけを使用して醸造されたお酒のことで、純米酒として名乗るためには、アルコールを添加しないことが条件です。アルコールを添加した場合は、純米酒とは名乗れず「本醸造酒」や「普通酒」などに分類されるそうです。

写真は、お酒の製造現場です。

(移築した木材が使われ歴史を漂わせています)



代表銘柄酒は万葉集の詩から命名した“勝鹿（かつしか）”で、見学の最後にお酒や昔ながらの製法による“みりん”の試飲・販売会では参加者から感激の声が上がっていました。



さて、次の見学施設まで暫く時間があつたので、美味しい昼食を堪能してすぐ近くにある“史跡山崎貝塚（地表に貝殻が露出している）”を見学しました。昔は、この辺りまで海が入り込んでいたのかと、一同驚きでした。



3. (株) 雪印メグミルク 野田工場：1989年3月工場開始。敷地 58,800 m² 東京ドームの1.3倍。牛乳やヨーグルトなどの食品 44 品種を製造する大規模自動化工場。ISO14001（環境管理システムの国際標準規格）を取得。



見学会では、まず食品アレルギーを確認の上、試食を勧められました。ヨーグルトのフタの裏面にヨーグルトがつかない工夫がされています。



冷蔵保存が必要なチルド製品の外装は赤色で光を通しにくい遮光パッケージになっており、製品検査は、重量の他、異物が混入していないかなどを金属検知器で検査を行っています。最後の出荷前検査では、脂肪分をチェックしています。ここまで厳重な検査をしていますが、人間の感覚を利用した官能検査の確認を8個のカップで識別（旨み、酸味、甘味など）する検査も行っているとのことでした。ところで、牛乳を飲むとお腹がゴロゴロとする人がいます。乳糖分を減らした“アカディ”という製品がお勧めだそうでした。



感想：ファンケル様では化粧品による美健（外も内も輝く）のコンセプトにより品質面の向上を目指され、窪田酒造様では古来の伝統製法を活かしつつ新しい工夫をされていました。雪印メグミルク様ではアレルギー対応や乳糖対策など顧客に沿った製品作りをされていました。今回の施設見学を通じて感じたのは、3社ともに様々な工夫をしておられ、お客様の嗜好に全力で対応されると共に万全な品質管理体制を敷いて製造されているということでした。私の地元企業ばかりでしたが、今まで3社の製造工程を見学したことはなく、大変参考になりました。企画していただいた経営工学部会の幹事の皆さん、そしてこの3社の説明を担当された方々に深く感謝致します。

なお、今回の施設見学先のウェブサイトは以下の通りです。ぜひ、皆さんも見学をされてはいかがでしょうか。

- ① [千葉工場 | 見学ツアーのご案内 | 知る・体験する | FANCL ファンケル](#)
- ② [窪田酒造 | お酒専門通販 | CHIBA-SAKE \(千葉酒\)](#)
- ③ [野田工場 | 雪印メグミルクの工場見学、オンライン・バーチャル工場見学 | 雪印メグミルク株式会社](#)

以上

§ 6 参加報告

令和6年度 東海大学主催イベント、関連イベントへの参加報告

吉田倫夫

望星技術士会では、東海大学主催のイベントや東海大学に関連するイベントに積極的に参加し、教員や学生・大学院生との交流を通じた啓発活動を行っている。令和6年度においては、4つの行事に参加したので、以下の通り報告する。

1. 東海大学情報技術センター (TRIC) 開設50周年記念

(1) 開催日時

令和6年9月14日 (土) 13:00~20:00

(2) 開催場所

東海大学品川キャンパス2号館 2B101大講義室

(3) 参加者

出席者: 約130名 (望星技術士会から6名参加)

参加会員: 笠原氏、庄司氏、永井氏、齋藤氏、桜井氏、吉田氏

(4) イベント概要

TRICは1974年に開設され、人工衛星リモートセンシングをはじめとする画像技術の先端研究に取り組む研究機関である。現在は、学内外の研究機関・行政機関・企業と連携し、画像情報分野を中心とした研究と人材育成に取り組んでいる。本イベントは、TRICの開設50周年を記念して、3部構成で開催された。

第1部: 情報技術センター研究報告会

第2部: 50周年記念行事

第3部: ネットワーキング兼坂田敏文先生思い出の会

(5) 参加会員の所感

笠原氏

今回の記念行事については、土木工学科の虎谷教授よりご案内いただき、会員6名で参加した。参加者の多くは東海大学に関わる研究者であり、我々からは在学生への「技術士取得」に向けた出前授業の紹介を行った。白水助教による水災害対策技術の紹介では、今後の事業計画・設計・施工において技術士の役割が重要であり、土木工学科の学生に技術士試験への挑戦を呼びかけた。

齋藤氏

東海大学の研究者が多様な分野で学外機関・行政・民間企業と連携し、実績を積んでいる様子に感銘を受けた。地球規模の気候変動に伴う災害リスクへの対応や、自然環境保全、脱炭素社会の実現に向けて、同センターが果たす今後の役割に期待が高まる。

吉田氏

昭和61年3月卒業生として、TRICは最先端研究を担う存在として印象に残っており、坂田敏文先生がテレビで解説される姿を誇らしく感じた記憶がある。今回、50周年を迎えた節目の行事に参加できたことを嬉しく思う。今後も研究がさらに広がっていくことを願う。

[謝辞]

本イベントの情報は、望星技術士会総会後の懇親会にて、虎谷教授 (東海大学 情報技術センター) よりご案内いただき、後日正式なご招待を受けたものである。このような貴重な機会を頂いた虎谷教授に、心より感謝申し上げる。

(参考) 東海大学HP

開催案内: 「情報技術センター開設50周年記念行事」を開催します。2024. 08. 01

<http://www.tric.u-tokai.ac.jp/new/jwhat20240801.html>

開催報告: 「情報技術センターの開設50周年記念行事」を開催しました。2024. 09. 26

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1065362/>

2. 第1回海洋理工学セミナー 地球温暖化の時代だからこそ、海洋と大気のことを話そう

(1) 開催日時

令和6年12月8日 (日) 13:20~15:30

(2) 開催会場

静岡商工会議所事務所会館401号室 (静岡市)

(3) 参加方法

対面またはオンライン (ZOOMによるWeb方式)

筆者はオンラインにて参加

(4) 主催

東海大学海洋学部海洋理工学科

(5) セミナー概要

地球温暖化の進行に伴い、日本周辺海域でも海面水温の上昇が顕著となっており、2017年以降、黒潮が大きく南に蛇行する「大蛇行流路」となっている。その継続期間は観測史上最長を更新し続けている。

本セミナーは、このような海洋環境の変動について考える機会として、2022年度に新設された海洋理工学専攻の教員3名（海洋学を専門とする）と、本学海洋学部の卒業生であり、今年度より本学客員教授に就任した依田司氏（気象予報士）による講演を通じて考える機会にしようと、初めて開催されたものである。

(参考) 東海大学HP

開催案内：第1回海洋理工学セミナーを開催します 2024. 11. 26

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1131200/>

開催報告：第1回海洋理工学セミナーを開催しました 2024. 12. 19

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1162004/>

3. 東海大学合同研究会 (TOKAI Research ColLab) 2024

(1) 開催日時

令和6年2月21日（金）12：00～18：30

(2) 開催場所

東海大学湘南キャンパス 19号館

(3) 参加者

参加会員 4名：笠原氏、齋藤氏、吉田氏、本多氏

(4) イベント概要

TOKAI Research ColLab 2024は、研究Day2024、CNGRシンポジウム、T μ ne学術講演会が合同で開催されるイベントです。総合大学のスケールメリットを最大限に活かし、分野を超えた研究交流を促進することで、研究者同士の相互研鑽を深め、新たな研究の種を見つけることを目的としている。また、国が実施する研究関連施策に対する理解を深め、大学、企業、研究機関とのコラボレーション (ColLab) を通じて連携基盤を構築することにより、研究力のさらなる向上を目指している。

ここでCNGRとは、Center for Next-Generation Researchの略で、東海大学次世代研究創成拠点を指す。またT μ netとは、Tokai University

Micro/Nano Enlightenmentの略で、東海大学マイクロ・ナノ啓発会を指す。

本イベントは、下記7部構成で実施され、3～7に参加した。

- (1) 総合研究機構プロジェクト研究成果報告会
- (2) ランチョンセミナー
- (3) 企業懇談会
- (4) CNGRシンポジウム・T μ ne学術講演会
- (5) ポスターセッション
- (6) 情報交換会 (17:15～18:25)
- (7) 閉会式・表彰式 (18:25～18:30)



写真1 企業懇親会で望星技術士会の概要を説明する齋藤氏

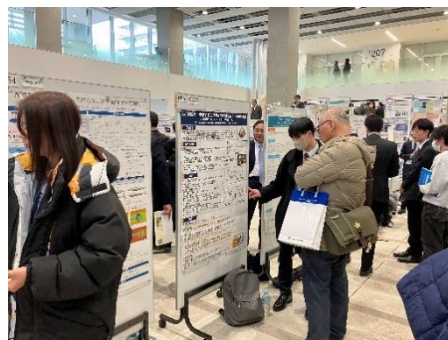


写真2 ポスターセッションで研究者と意見交換する笠原氏

(5) 参加会員の所感

笠原氏

今回は望星技術士会からの参加表明に対して、喜多委員長から若手研究者のキャリアデザインの観点から歓迎を受けた。博士課程は英文での高いレベルの発表であったが、研究成果のプレゼンに課題があった。その解決手法として、図や挿絵を用いたわかりやすい解説手法を伝授した。

齋藤氏

今回の合同研究会に参加して、我が国の技術力向上の重要性が叫ばれる中、総合大学である本学では幅広い技術分野の高度技術人材育成に向けて、他大学にも引けを取らない環境が整備され、これ

からの技術者には学位取得を目指すことも必要だと実感した。ポスターセッションでは日本語を話さない留学生の道路舗装のクラック補修技術について英語で説明を受け、英語力の重要性を改めて実感した。

吉田氏

今回、TOKAI Research ColLab 2024に参加して、東海大学の先生方や若手研究者と交流することができ、非常に有意義な機会となった。加えて普段、交流する機会の少ない望星技術士会の会員とも知り合う貴重な機会となった。案内をいただき感謝する。望星技術士会の会員に案内を送ったところ、役員以外の方にも参加いただいたことに感謝している。

本多氏

企業懇談会、講演会、ポスターセッションに参加し、様々な刺激を受けることができた。東海大学における幅広い研究内容や環境整備状況、近年の企業内博士の必要性等を理解できた。一方で、技術士について学生への周知の重要性も感じた。非常に貴重な機会に参加でき、大変感謝している。

〔謝辞〕

東海大学（TOKAI Research ColLab）2024は、建築都市学部の梶田教授より案内をいただき、望星技術士会の会員へ案内を送ることができた。役員以外の方々にも参加いただき、また、東海大学の教員と広く意見交換することができたことに感謝申し上げます。

（参考）東海大学HP

開催案内：開催案内＞TOKAI Research ColLab 2024 2025. 02. 04

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-notice/1200514/>

開催報告：湘南キャンパスで「TOKAI Research ColLab2024」を開催しました 2025. 03. 11

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/1256375/>

4. シンポジウム「大学が博物館を持つ意義」

大学における付属博物館の役割を改めて考える

（1）開催日時

令和6年3月16日（日）13：00～16：00

（2）開催場所

東京国立博物館黒田記念館（東京都上野公園）

（3）主催

全日本博物館学会（2024年度第3回研究会）

大学博物館シンポジウム実行委員会

（4）イベント概要

大学入学者人口の減少が続く中、大学経営は歴史的な危機に直面しており、大学付属博物館も厳しい状況に置かれている。これまで、大学付属博物館は研究成果の保存展示や学芸員実習の場としての役割が論じられてきたが、大学への志願者募集の段階で博物館がどれほど役立っているか、また大学の経営戦略の中で付属博物館をどう位置づけるかについては十分に議論されていない。

このような視点でのケーススタディ（各大学の実情報告）を行い、全国の博物館事情と併せて考慮し、大学付属博物館の役割を議論する。

（引用）「開催案内」より

（5）プログラム

1）開会あいさつ：栗原祐司

2）「日本の大学博物館について」栗原祐司氏

3）「東海大学海洋科学博物館の存在意義」西 源二郎氏（元東海大学海洋科学博物館）

東海大学海洋科学博物館は1970年、静岡県清水市三保の地に、海洋学部付属として開館した。同館は水族館部門、科学博物館部門、研究所で構成される世界でも稀な博物館で、海洋の研究開発の重要性を啓蒙し、海洋学部の存在をアピールする役割を担ってきた。2023年3月で有料入館を終了し、2024年10月に閉館した。

4）「明治大学博物館の事業展開—大学の経営戦略との整合性について—」外山徹氏

5）「総合討論」座長 半田昌之氏

6）閉会挨拶：西 源二郎氏

（参考）全日本博物館学会HP 2024年度第3回研究会のご案内 2025. 02. 20

<https://museology.jp/archives/2458>

以上

4月29日（火）町田にてインタビューさせていただきました。

畑：ご無沙汰しております。本日はよろしくお願ひします。

和田顧問（以下、和）：こちらこそ。

和田顧問の経歴をお聞かせください

畑：はじめにご経歴の確認をさせていただきます。神奈川県のお生まれで、東海大学の工学部応用理学科にご入学されたのですね。この学部を選ばれた背景を教えてくださいませんか？

和：もともと化学装置の設計や化学装置材料に興味があったので、応用理学科・工業化学専攻を選びました。

畑：大学での研究内容について教えてください。

和：卒業研究では植物（紅花）色素の「化学構造の決定」を目指しましたが、難解で奥深いテーマだったので、1年間の研究では目標の結論には至りませんでした。そこで、1年間学資を稼ぐために企業へ勤め、その後「松前奨学金」をいただいて修士課程で2年間研究を行いました。その結果、目的であった「紅花黄色素の構造」を明らかにすることができ、日本化学会で報告を行いました。それをもって修士課程の研究を終了し、大学院を修了しました。

畑：松前奨学金ですか？ すごいですね。

和：当時（昭和41年）の大卒の初任給が24,000円だったのに対し、松前奨学金は30,000円もらえたんです。大学に残れば返済しなくてよかったのですが、民間企業でプラントの仕事がしたかったので、8年かけて返しました。

畑：大学院修了後、日機装に入社されて13年、その後日本ワコンに入社されて…

和：43年です。今でも現役なので56年目になります。我ながらすごいですね。

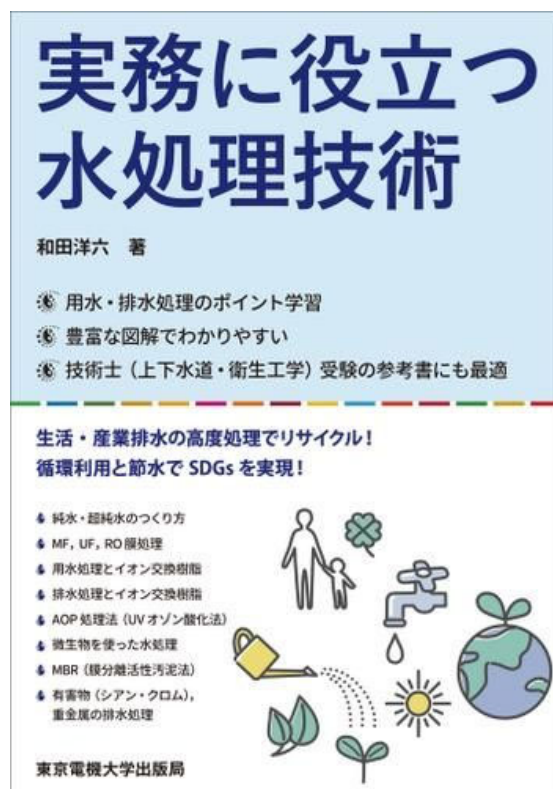
畑：現役というところが本当にすごいです。

日本ワコンに入社されてから、東海大学で学位を取得し、その後、東海大学と都立大学の大学院で非常勤講師をされているのですね。学位を取られた動機は何だったのでしょうか？

和：当時の学科の主任教授からの勧めがあったからです。

畑：まだ大学の先生とのつながりがあったのですね。何よりも和田さん、働きながら論文をたくさん書かれているところが本当にすごいです。それも、学位取得後も書き続けていらっしゃるのには尊敬します。書籍もたくさん書かれていますね。

和：一番新しい本がこれです（と実物を取り出す）。



【写真1 和田顧問の最新著書】

畑：「実務に役立つ水処理技術」。技術士（上下水道、衛生工学）受験の参考書にも最適って書いてありますね。これ、技術士会で宣伝しましょうよ！（という流れで、望星技術士会に1冊寄贈していただきました）

和：宣伝をお願いします。

畑：技術士を取得されたのは、日機装にいらっしゃる間ですね。受験の動機は何かありましたか？

和：会社の上司に技術士（機械部門）がいて、水処理技術関連の受験を勧められました。1 回目に受験した「衛生工学部門」では準備不足で合格できませんでしたが、2 度目の挑戦で合格しました。次に受験した「上下水道部門」では1 回で合格しました。2 部門の合格を通じて、技術士試験の要点が掴めたように思います。

畑：技術士を取得された後、学位を取得し、非常勤講師をされているのですね。当時も大学内で技術士という資格の知名度は高くなかったと思いますが、講義などで学生さんに説明されたりしましたか？

和：これからは大学を出ただけではダメだから、資格を取ろうという話はしました。応用化学系の資格として、危険物取扱者、公害防止管理者、環境計量士、そして技術士がある、と毎回話していましたね。どれだけ学生の中に残ったかは分かりませんが。

畑：社会に出てからでも「和田先生が言っていたアレか」と思い出して受験してくれると良いですね。

望星技術士会立ち上げについての様子や苦労話を教えてください

畑：それでは、本日一番お伺いしたかったお題に入ります。和田さんは望星技術士会発足前の「7 人の侍」（神藤さん命名）の一人と伺っていますが、立ち上げ時の様子やご苦労された点など教えてください。

和：望星技術士会立ち上げの1 年前に東海大学の非常勤講師をしていましたが、東海大学内に技術士会がないことを知り、太田さん（金属部門）に声をかけました。やがて先輩の神藤さん（金属部門）が加わり、望星技術士会を立ち上げようという話になりました。最初は新宿の喫茶店で打ち合わせを行い、要望をまとめてい

きました。その後、神藤さんの卒業研究指導教授が松前達郎総長であることが分かり、電話一本で連絡が取れるようになったことで設立がスムーズに進みました。打ち合わせは代々木校舎の教室を借りて行うようになり、技術士会としての体制が整いました。

畑：太田さんとはもともとお知り合いだったのですか？

和：大学の学科事務の喜友名さんが引き合わせてくれました。それが始まりです。

畑：和田さんが大学院の非常勤講師をしていなかったら、その「始まり」はなかったのですね。それにしても、準備期間が1~2 年というのは短いですね。

和：熱量があったからです。他の大学にはあるのに、天下の東海大学にないのは悔しいじゃないか、という思いがありました。

畑：熱量ですね。神藤さんもインタビューの時に「創るのが一番ワクワクする」とおっしゃっていました。立ち上げ時、和田さんが目指した望星技術士会とはどのようなものだったのでしょうか？また、現在の望星技術士会でどのくらい達成されているとお考えですか？

和：受験希望者がどうしても土木系や建築系に偏っているように感じています。東海大学は工学系の大学なので、もっと広い分野の受験者が増えることを望んでいます。

畑：確かに、学部・学科、職種に偏りがありますね。これは今後の課題です。

望星技術士会による現在の活動についてご意見をお願いします

畑：最近は大学での出前授業の効果もあって、在校生の一次試験合格者が少しずつ増えていますが、現在の望星技術士会の活動をどのように感じ、今後どのようなことを望まれますか？

和：毎週1 限目に行われる現代文明論の授業の中で、松前重義先生は「教育の効果が実際に出るのは約30 年かかる」と言われていました。望星技術士会は皆様の努力で軌道に乗ってきた

と思います。時間はかかりますが、このまま啓蒙活動が続けていただきたいと願っています。

畑：暖かいお言葉ありがとうございます。本会も発足から 10 年になりますが、今後の活動へのご助言をいただけますでしょうか？

和：技術というものは何ととっても「経験」が重要です。自分で考えたことや経験を、論文や著書に表すことで世の中の技術者に見てもらい、評価されることが大切です。そうすることで望星技術士会の名声も広まり、東海大学の名声も高まるでしょう。これまでの活動を継続し、さらに発展させていってほしいです。

畑：業務報告書は表に出ないことが多いですが、論文は広く読まれて知ってもらえますね。実際に論文を読んだ人から仕事の問い合わせが来ることもあります。会員の論文や著書を紹介するコーナーがあっても良いかもしれませんね。

和：最初に書いた本が出たときは嬉しくて、できあがった本を持って大学に行き、先生方に配りました。その中の先生が「これにもう少し足せば学位が取れる」と言ってくれたことで、学位を取るようになったのです。

畑：学位を取られる前に本を執筆されていたのですね。では、最初の本の執筆・出版が望星技術士会の本当の始まりだったのですね。

技術士として心がけていることを教えてください

畑：和田さんは 45 年にわたり技術士としてご活躍されていますが、心掛けていることはありますか？

和：私は現場での体験を一番重要視しています。81 歳の今でも工事現場に出て指導や監督を行っています。健康でいる間は現場に出て、その結果を著書や論文にまとめるよう心掛けています。世の中には、技術士や学位にふさわしい仕事をしているのに、論文などにまとめないことで試験に受からなかったり、学位が取れていない人が多いです。それは非常にもったいないことだと思います。

畑：私自身にも刺さるお言葉です。それでは、最後に一言お願いします。

和：松前重義先生の同志である「篠原登」先生がいらっしゃいます。無装荷ケーブル通信方式発明の協力者です。篠原先生は松前先生が立ち上げた「科学技術庁」の初代事務次官を務められました。技術士の資格は現在、文部科学省（以前は科学技術庁）の管理下にあり、東海大学とは深い縁があります。私たちは「建学の精神の 4 項目」を常に念頭に置き、東海大学 OB として若手の皆さんと共に頑張りたいと思います。

畑：本日は貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。どうかお体に気をつけて、これからも「現役」でいらしてください。

町田駅で待ち合わせをしていただき、コーヒーを飲みながらのあっという間の 1 時間でした。お忙しい中お話しいただき、貴重な著書もいただきました。また、論文執筆を後回しにしている自分が恥ずかしくなるほどの大先輩のお話でした。



【写真 1 和田顧問近影】

§ 8 望星技術士会の会員構成

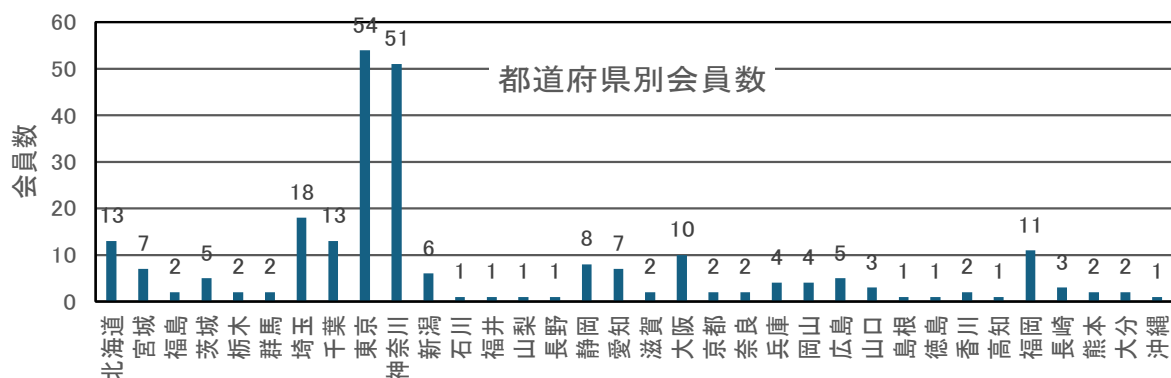
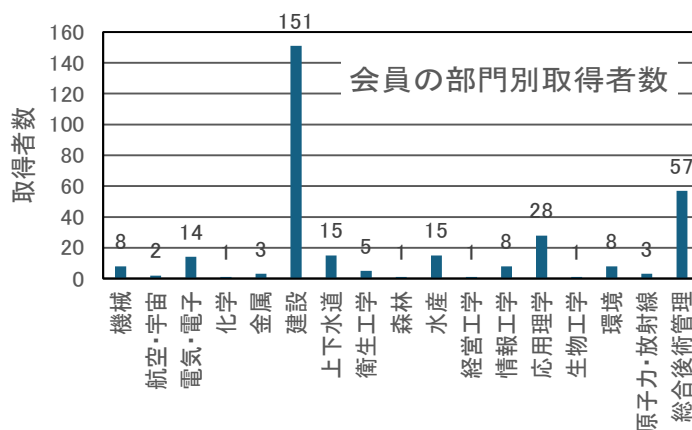
東海大学望星技術士会は、本学を卒業し技術士資格を取得した方々による会で、平成 27 年 11 月に創立され、今年で 10 周年を迎えます。本会は東海大学の総合大学としての特長を活かし、多様な分野の技術者が集う全国的な組織となっています。2024 年 11 月時点での会員数は 249 名で、そのうち技術士が 237 名、技術士補または一次試験合格者が 12 名です。学歴別では、学部卒が 207 名、大学院卒が 42 名です。また、教職員の会員は 27 名で、そのうち 4 名が技術士です。

出身学科は、土木工学科や海洋土木工学科が多く、海洋資源学科や海洋工学科の出身者も目立ちます。勤務先は、建設コンサルタントが最も多く、次いで建設会社や官公庁などに勤務している方が多いです。技術士の専門分野では、建設部門が最も多く、次いで応用理学、水産、上下水道、電気・電子の各部門の会員が多く、全部で 16 部門に及びます。会員の居住地は、東京を中心とした首都圏のほか、北海道、大阪、福岡などの都市部に広く分布しています。

望星技術士会会員の出身学科

工学部 119	応用理学科	精密機械工学科	金属材料工学科	経営工学科	建築学科	原子力工学科	光工学科	工業化学科
	3	1	2	1	7	3	1	4
	航空宇宙学科	制御工学科	生産機械工学科	通信工学科	電気工学科	電子工学科	土木工学科	動力機械工学科
	6	1	3	5	4	3	72	3
海洋学部 118	海洋土木工学科	海洋科学科	海洋工学科	海洋資源学科	水産学科	地球環境科学科	海洋生物学科	
	54	6	12	32	12	1	1	
開発工学部 1	生物化学科	理学部	情報理工学科	情報工学科		第2工学部	機械工学科	電気工学科
	1	2	2	1		4	3	1
北海道東海大学 2	海洋開発工学科	海洋環境学科		九州東海大学	土木工学科		他大学出身(但し東海大学大学院卒)	水産学科
	1	1		1	1		1	1

会員所属業種	会員数
建設コンサル	171
建設会社	12
官公庁	12
技術サービス	10
製造業	9
建設設備業	4
大学・研究者	3
運輸業	2
その他	26



<連絡事項>

1. 会員の皆様へのお願い

東海大学望星技術士会は、入会金や年会費を現在まで徴収していません。活動費用は、行事ごとの参加費から必要経費を除いた残金や皆様からの活動協力金や寄付金を運用しています。そこで次のお願いがあります。

(1) メールアドレス変更の場合は必ず連絡ください。

当会では郵送費や会誌印刷費の予算はありませんので、メールで連絡します。アドレスの所有が情報交流のための必須条件です。メールアドレスを変える場合は大学事務局 喜友名氏にご連絡をお願いいたします。

kiyuna@tsc.u-tokai.ac.jp

(2) 東海大学出身の技術士を紹介してください

令和6年度の会員数は249名、教職員会員27名です。東海大学卒の技術士をご存じでしたら、是非入会をお勧めくださるようお願いいたします。会員が多いと会のプレゼンスが向上し、活動項目も増やせます。

(3) 入会方法ならびに問い合わせ先

望星技術士会ホームページの下段にある「お問い合わせ」に入り、「問い合わせフォーム」の文字をクリックすると「望星技術士会入会申込フォーム」が開きます。ここに必要記載事項を記載し、送信してください。お問い合わせの場合も同フォームの末尾「備考（その他）」に書き込みをお願いいたします。

東海大学望星技術士会のホームページ

<https://engineer.bousei.u-tokai.ac.jp/index.html>

(4) 行事等への参加のお願い

講演会や見学会などの行事には会員以外の方にも参加いただけるようにしています。特に、講演会は学生の参加も可能です。同僚や同窓の方などに、開催通知を転送していただければ幸いです。

です。最近リモート形式での講演会も開催していますので、全国から参加可能となりました。

(5) ご意見やご提案をお待ちしています

「こんなイベントを実施して欲しい」などのご提案や、改善点などのご意見を是非事務局アドレスまでお送り下さい。遠方の方もどしどしご意見や近況をお寄せいただければ幸いです。

(6) Facebook による情報を配信中

2022年よりFacebookで望星技術士会の活動を配信しています。ホームページより頻繁に情報を配信していますので、ご覧になってください。
(<https://www.facebook.com/engineer.bousei>)

2. 2024年度活動協力金（寄付金）状況報告

2024年度（2024.4.1～2025.3.31）の本会へご寄付いただいた方のお名前と活動協力金総額を以下の通り報告致します。本会の活動へご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

活動協力金 94,000 円、寄付金 17,445 円

活動協力金としてご協力いただいた人は以下の9人(五十音順、敬称略)です。

今村 均、岩佐直人、齋藤 寛、中木 康幸、中田 邦彦、土方 聡、平野 滋、藤田 孝康、吉田 倫夫 以上

活動協力金を随時募集しています。一口2,000円で上限は十口/年です。ご協力いただける場合、会計の竹内へご連絡ください。

(seiichi.takeuchi@fudotetra.co.jp)

送金方法をご案内します。

3. 望星技術士会の今後の予定

令和7年度の総会は、下記の日程及び内容を予定しております。詳細は、改めて会員の皆様へ連絡を差し上げます。

日程；令和7年7月26日（土）13:30～

場所；湘南キャンパス19号館207教室

対面とZoomによるWeb方式併用

特別講演；東海大学工学部機械システム工学科
佐川耕平准教授（東海大学ソーラーカーチーム総監督）

演題：ソーラーカーレース (BWSC2025) 参戦を通じた技術人材育成 (仮題)

このほか、会員向けのシンポジウムを下記の通り計画しています。

日程；令和7年11月もしくは12月

場所；湘南キャンパス（対面開催）

講師；「常態化する気候変動・地殻変動で激甚化する災害に対して、私たちができることは」
一能登半島地震・豪雨災害を事例にして一
東海大学の教職員および望星技術士会会員による講演と討論会

また、札幌キャンパス、湘南キャンパス、静岡キャンパス等での出前授業は例年通り継続します。

<編集後記>

◆望星技術士会発足から10年目となり、学生への講義の場も広がってきています。また、技術士第一次試験の合格者が増えてきたことは、喜ばしい限りです。今後もその活動を広げていくとともに、それを取りまとめた充実した会報を作っていきたいと思います。（庄司）

◆学生の一次試験合格数の増加は素晴らしく、より多くの方々に会の活動を知っていただければと思います。（鳥本）

◆和田顧問から望星技術士会創設の軌跡をお聞きし、人の縁の大切さ、技術士として働き続けることの意義など大切なお話をいただき、喝を入れていただきました。（畑）

◆令和6年度活動概要を確認していて、以前私が一人でこの会報を編集していた頃とは比べ物にならない活発な活動がなされていることに改めて感激です。（星崎）

◆2024年度は札幌、湘南、静岡の各キャンパスで技術士一次試験の合格者が出ました。当会の活動の成果が少しずつ出てきています。また、2025年度は当会の10周年に当たり、さまざまなイベントを企画していますので、来年の会報にご期待下さい。（綿貫）

ホームページ



フェイスブック

